

翻刻・京都大学文学部図書館蔵『東福寺清規』（一）

鶴見大学仏教文化研究所所員 尾崎 正善

はじめに

今回翻刻する『東福寺清規』一巻一冊・（慶長年間成立）は、京都大学文学部図書館所蔵（請求番号・京都大学・Ind-ph-Q-37）である。詳しい書誌に関しては後に論ずるが、本清規は表題が示すように東福寺関係の清規で、京都大学文学部図書館所蔵の無著道忠（一六五三～一七四四）関連の史料の一つである。

東福寺関係の清規史料としては、本清規の外に

- 一、内閣文庫（国立公文書館）所蔵『慧日山東福禪寺行令規法』文保二年（一三二八）頃成立
- 二、東福寺霊雲院所蔵典籍三六『日用軌範鈔』（東大史料編纂所 6114-10236）
- 三、『東福寺衆雜稿』（東大史料編纂所 2016-398）

が知られるだけで、その特徴や傾向に関して深く研究されているわけではない。

昨年度までの『仏教文化研究所紀要』においては、南禅寺関係の清規史料を紹介してきた。それらの紹介論文の中でもすでに述べたが、南禅寺関係の清規史料に関しては、まとまった数のものが確認されており、その比較検討も行ってきた。

これに対して東福寺関係の清規史料は、『慧日山東福禪寺行令規法』を除いて紹介されることがなかった。今回、

道忠が筆写した本清規を紹介することにより、東福寺の清規・儀礼の特徴が明らかになるだけでなく、南禅寺との相互の関係が新たに見えてくると思われる。

本清規の翻刻紹介により、多角的な禅宗清規研究の一助となることを期待する。

一、表題ならびに形状

最初に、本清規の簡単な書誌を記しておく。

〔東福寺清規〕

外題 東福寺清規（題箋）

内題 慧日山東福禪寺

法量 縦二七・七糎×横一八・七糎

装幀 四ツ目綴

存缺 ナシ

丁数 本文百二十四丁

疑誤・名目（二丁）

東福寺所領目録（五丁）〔以上、六丁は道忠の加筆と思われる〕

奥書 右東福寺清規借雲祥禪院本寫之

元禄十五年歲次壬午仲夏初三日

龍華 道忠識

（二二四ウ）

一巻本で欠損はない。但し、江戸期、無著道忠の書写であるので、その時点で不明の箇所、また誤字・脱字と思われる箇所もある。これに関しては、疑誤・名目の箇所に詳しいのでそちらを確認いただきたい。

二、成立過程

次に『東福寺清規』の成立過程について確認しておこう。なぜ、成立時期とせず過程としたかといえば、本清規は先に述べたように、江戸時代、無著道忠の書写本であり、その時点までに幾たびか手の入っていることが想定されるが、その段階を特定できないからである。

これは、前回紹介した『南禅清規』と同様のケースである。

さて、史料中に記される主な年号を見ると以下のようになる。（記載年号、総てではない）

- ① 応永十五年（一四〇八）（二八オ〜ウ）
- ② 長享二年（一四八八）（七四オ）
- ③ 延徳元年（一四八九）（七四オ）
- ④ 明応七年（一四九八）（七二オ）
- ⑤ 文亀二年（一五〇二）（一二二ウ）
- ⑥ 永正二年（一五〇五）（七一ウ）
- ⑦ 永正十一年（一五一四）（一八ウ）・（二〇二ウ）
- ⑧ 大永二年（一五二二）（七一ウ）
- ⑨ 大永七年（一五二七）（四六ウ）

- ⑩ 文禄三年（一五九四）（二二〇才）
- ⑪ 文禄四年（一五九五）（一一九才）
- ⑫ 慶長三年（一五九八）（二九ウ）・（一一四才）・（一一七ウ）
- ⑬ 慶長四年（一五九九）（七一才）・（一一八ウ）
- ⑭ 慶長五年（一六〇〇）（六三才）・（一一四ウ）
- ⑮ 慶長十年（一六〇五）（三才）・（一九ウ）
- ⑯ 慶長十三年（一六〇八）（二二〇ウ）
- ⑰ 慶長十六年（一六一一）（二二〇ウ）
- ⑱ 元禄十五年（一七〇二）（二二四ウ）

この内、①は、「一 涅槃像者、應永十五戊子、兆殿主五十七歳、六月所畫也、」（二八才ウ）とあるように、本清規が編集された時点で使用されていた、「涅槃図」の由来である。

また、②長享二年（一四八八）から⑦永正十一年（一五二四）にかけての記述は、「一 上堂小參ノ問禪、自正月元旦至十二月除夜ニ差定」・「一 乘拂ノ法語ヲ、呈上スル上方ノ事」・「一 上堂小參ノ問禪ヲ、呈上スル上方ノ事」（六八ウ）などの、本清規が編集される以前の差定に関する記録である。

特に③④は、

延徳元 己酉年

長享二 申戌年 如レ右ノ六頭首アリ （七四才）

とあるように、先例を踏まえるための記載である。

また、⑨大永七年には、

大永七年丁亥、二月十三日、於三川勝寺ニ合戦 戦

死レ可レ數、同三月七日、東福寺一山之衆、於ニ彼

戰場ニ追甲、施食牌云、

時住持、芳卿和尚也、特請
永明、蒲心、座元、爲維那

というような、歴代の記録も残されている。芳卿は、芳卿光隣（天文五年（一五三六）六月十四日寂）東福寺二百世のことである。

さて、本清規が編集されたのは、その冒頭にある「定」の定められた、慶長十年頃と思われる。そこには、

慶長十巳年正月吉辰

西堂令柔〔東福寺二三〇世〕

住持守藤

〔東福寺二三三世〕

勝林聖澄

〔東福寺二三二世〕

龍吟龍珊

〔東福寺二三五世〕

三聖光澤

〔東福寺二三八世〕（三才）

（※世代数は、筆者注）

とあるように、当時の歴代住持の名と共に東福寺の掟が定められ、これに続いて本編というべき「當寺年中勤行次第」が始まっている。

慶長十年を重視する理由は、この記述の外、「正月十一日吉書案文」（一九ウ）と「納御寺領米錢之事」（一九ウ）が正月の本文中に書かれることが挙げられる。

それ以前の記録、例えば慶長三年は、

慶長三戌年三月十八日

無準和尚三百五十年忌 (二〇オ)

というように無準師範の遠忌の記録である。

また、慶長五年は、「預_リ申祠堂錢之事」(六三オ)、「預_リ申祥雲院殿祠堂之事」(六三ウ)という祠堂錢の預かり状の雛型と、「大慈_ノ開山佛通禪師ノ三百年忌」(二一四ウ)の記録である。

逆に慶長十三年・十六年は本清規末の「納入祖堂料之事」慶長十三年(二二〇ウ)、「萬壽寺ニテ、單寮ニナル時_ク請取_ノ書様」慶長十六年(二二〇オ)というように、後に付加したものともいえる箇所である。

さらに、本文末尾、道忠の奥書の前には次のようにある。

此節ノ役ヲ勤テ、又勤_ニ次ノ節ノ之役_ヲ、却來_一ト云フ也、

上_ノ參暇、下_ノ參暇、兩人共_ニ前堂_也、然_レ前堂大勢無_キ故_ニ、今_ハ

者上_ノ參暇_ハ西堂也、

前堂_ハ者住持_ノ次_ニ用_ル也、諸役等_ノ六箇敷用_共、公事等_ヲモ、

批判_{スル}也、

松月軒主月溪聖澄長老之自筆也、 (二二四ウ)

ここには、參暇・前堂首座・住持の役割分担が示される。この文章は、最後に「月溪聖澄長老之自筆也」とあるこ

とから、東福二二二世月溪聖澄（慶長元年へ一五九六）十二月十三日開堂・元和元年（一六一五）寂の自筆のものを参照しており、彼が活躍した時代に編纂されたと考えられる。

以上より、およそ長亨二年（一四八八）から永正十一年、そして大永七年（一五二七）ころまでの東福寺に残る古い時代の各種記録を参照しつつ、慶長三年（一五九八）三月十八日の「無準和尚三百五十年忌」から慶長十年（一六〇五）にかけての時代を中心に東福寺で行われていた年中の行事を編集し、最終的には、慶長十六（一六一一）頃に編集を終えたものと考えられる。

特に後半、一一六丁以降、「侍状官錢之事」以下は、各種書式で段階的に付加されたとも想定される。しかし、これらの項目は目次にも載せられており、また一時に書写したもので原本の筆の違いもわからないため、これらはいくくまでも推測である。

それを最終的に、元禄十五年（一七〇二）に無著道忠が筆写させたのであろう。道忠の作業に関しては改めていうまでもないが、南禅寺関係の清規同様その収集過程の作業と思われる。

なお、本清規を道忠が書写したことは、『東福寺誌』九二七頁下に記されており、白石虎月師は本書を確認していたことがわかる。

三、構成

次に、本清規の内容に関してその構成と特徴を述べてみたい。

本清規は、一巻で全体は年中行事を中心に各種法要を記し、その中でも前半部分は正月から開山忌のある十月まで、そして後半（今回、翻刻紹介を行わなかった部分）には各種法要・儀礼の細かな内容・諸注意が記され、最後に各種書類の雛型が記録されている。さらに道忠が、「疑誤・名目」「東福寺所領目録」を付加している。

その大まかな内容に関しては、「當山中勤行次第」(三才)を参照すれば一目瞭然である。この部分は、目次といふべき箇所、本清規の記述内容全体を記しているが、必ずしも表題と一致しないので注意が必要である。

まず、「當山中勤行次第」の前には、「十境」と「定」があるのみである。

次に「當山中勤行次第」のあらましを記すと、

「東班西班牙之位次」(一〇才)・「正月元旦」(一才)・「二月」(二一才)・「三月」(二九才)・「四月」(三一才)・「六月」(四二才)・「七月」(四三才)・「九月」(四七才)・「十月」(四八才)

で、十月の開山忌関係の記述が終わるのが六十九丁目の表までである。つまり十月の記述は、二十丁もの長さに亘る。しかし、十一月、さらに十二月に関しては、「成道」「除夜」等の個別の記述はあるが、特に一ヶ月を通しての記述はない。ここまでは凡そ月毎の諸行事を並べ、それに関連する事項に関して詳細な進退等を記している。

これ以降の記述内容に関しては、項目だけ挙げてでも煩瑣になるが、特徴的なものを列記するならば、

「禪客評定之事」(七〇才)・「上堂小參」問禪、自正月元日至十二月除夜「差定」(七〇ウ)・「榜書様」(七五才)・「秉拂」住持ノ諸道具」(七六才)・「五社土地堂念誦」(七八才)・「大坐湯」(七八才)・「小參」(八〇才)・「茶堂茶礼」(八〇ウ)・「冬節秉拂當日」(八一ウ)・「草飯」(八四ウ)・「上堂」(八五ウ)・「巡堂焼香次第」(九〇ウ)・「茶礼式」(九一ウ)・「佛殿祈禱焼香之事」(二〇五才)・「臘八佛成道」(二〇五才)・「歳節」(二〇五ウ)・「除夜諸行事次第」(二〇七才)・「風呂」(二〇七ウ)・「坐禪」(二〇九才)・「本寺行事」(二一〇才)・「月中行事次第」(二一〇ウ)・「永明院開山三百年忌」(二一四才)・「大慈開山三百年忌」(二一四ウ)

等が記される。詳しくは本清規の該当箇所を参照いただきたいが、僧堂における各種法要の場所や準備、そして詳細な進退等について記されている。

続いて、「侍状官錢書様」(二一六才)以下は、

「後版官錢書様」「逆修祠堂入牌料書様」「無拂出錢請取書様」「塔婆錢請取書様」

というように、各種書類の書式である、これが百二十四丁目の表まで記される。

そして最後は、道忠の付加であろうか、「疑誤」と「名目」そして「東福寺所領目録」で終わる。

最後の部分はひとまず置くが、本清規は最初にも述べた如く、慶長十年頃の東福寺の年間の行事全般、および各種儀礼・行事の実態を大変詳しく記した清規であるといえよう。

また、その他の清規においては、「回向文」「疏」、各種法要の「差定」等を記す形式のものもあるが、本清規においてはそのような関係の記述は見あたらず、住持・首座・侍者等の進退が詳細に記される形式である。

四、引用・僧名・注について

次に本清規と他の資料との相互関係を見てみよう。

まず、本清規においては先行する清規の直接的な引用は確認できない。つまり、『校定』『備用』『勅規』という中国の清規、および先行する臨済系の諸清規からの引用などはない。特に断りなく引かれる場合もあるが、そうした点も現時点では確認できない。

一部、『慧日山東福禪寺行令規法』と同じ内容が確認できるが、これが東福寺において継続して行われていた行事・進退なのか今後の研究を待ちたい。

一方で、本清規には多くの僧名が記されている。各種書式等の先行する資料を引用する箇所だけでなく、注記の形で幾つかの意見・解釈を引用している。こうした引用は、他の清規にも見られることではあるが、以下のように多くの僧名を記録するのは、本清規の大きな特徴である。次にこうした点を確認してみたい。

まず、記載される僧名の一覧である。

重複するが、冒頭の「定」のである。

西堂令柔 (三才) (剛外令柔へへ一六二七)・東福寺三三〇世)

西堂龍玄 (三才) (圭叔龍玄へへ一六二五)・東福寺三三二世)

住持守藤 (三才・一一九才) (集雲守藤へへ一六二二)・東福寺三三三世)

勝林聖澄 (三才) (月溪聖澄へへ一六二五)・東福寺三三二世)

龍吟龍珊 (三才) (友月龍珊へへ一六一五)・東福寺三三五世)

三聖光澤 (三才) (天倫光澤へへ一六〇九)・東福寺三二八世)

先にも挙げた「聖澄」(月溪聖澄)は、後にもその名が記される(六三才・六三ウ・一一四ウ・一一六才・一一九才・

一一二〇才・一二四ウ)。このように、彼の活躍した時代の記録、また意見を重要視していることが確認できる。

次に、「坐牌図」・各種書式等に見られる、禪者を列記しておこう。(以下では、法諱と職名の順番を統一した)

温如座元 (一二ウ)

不二岐陽 (二四ウ・二五才) (岐陽方秀へへ三六一)・一四二四)・東福寺八〇世)

兆 殿主 (二八才)

瑞雪座元 (四〇ウ) (瑞雪光欽?へへ一六二四)・東福寺三三一世)

花溪座元 (四〇ウ)

涼 首座 (四〇ウ)

丹 首座 (四〇ウ)

仙 藏主 (四〇ウ)

心 藏司 (四〇ウ)

- 芳卿 (四六ウ) (芳卿光隣へ一五三六)・東福寺二〇〇世)
涅如座元 (五二才)
伯 沙彌 (五二才)
松 首座 (五二ウ)
英 喝食 (五二ウ)
賀 藏司 (五二ウ)
文林 (七七ウ・八一ウ・一〇二ウ・一一一ウ) (文林爲郁・『五山禪林宗派図』九〇頁)
令総侍者 (二〇一ウ)
昌續侍者 (二〇一ウ)
綱宗西堂 (二〇二才) (綱宗宗揚へ一五三二)・東福寺二〇一世)
允芳西堂 (二〇二才) (允芳慧菊へ一五四八)か?・『五山禪林宗派図』八〇頁)
香仲西堂 (二〇二才・一一六才・一一七才) (香仲見橘へ一五五四)・東福寺二〇八世)
季汾座元 (二〇二才)
令雄侍者 (二〇二才)
長杉侍者 (二〇二才)
汝川 (二〇二ウ) (汝川正三か?・『五山禪林宗派図』一四一頁)
光東書記 (二〇二ウ)
宗澄首座 (二〇四ウ)
壽超首座 (二〇四ウ)

竹卿西堂 (一一四才) (竹卿慧賢)

仁室西堂 (一一四才)

久藏主 (一一四才)

宗琛西堂 (一一六才・一一七ウ)

光秀西堂 (一一六才・一一六ウ・一一七ウ) (蘭甫光秀・東福二一世)

聖琳首座 (一一六ウ・一二二ウ)

令松西堂 (一一六ウ) (高岳令松へへ二五五二▽・東福寺二〇五世)

守仙西堂 (一一六ウ) (彭叔守仙へへ二五五五▽・東福寺二〇七世)

宗登西堂 (一一六ウ) (二了宗登・『五山禪林宗派図』一〇三頁)

令從西堂 (一一七才) (瑞雲令從へへ一五三四▽・東福寺二〇三世)

令藤塔主 (一一七ウ)

光勝侍衣 (一一七ウ・一一八才・一一八ウ・一一九ウ)

惠賢西堂 (一一七ウ・一一八才・一一八ウ・一一九ウ)

利濟西堂 (一一七ウ・一一八才・一一八ウ・一一九ウ) (惟舟永濟へへ一六一二▽・東福寺三二九世)

聖興侍衣 (一一〇ウ)

守沆侍衣 (一一〇ウ)

義超參暇 (一一〇ウ)

永徳參暇 (一一〇ウ)

瑞雪西堂 (一一一才) (瑞雪光欽へへ一六二四▽・東福寺三三一世)

宗春首座（一一二才）

永喜沙彌（一一二ウ）

周瑤首座（一二三才）

夜泊軒光松（一二三才・一二三ウ）（東歸光松へ一五〇三〽・東福寺一八一世）

聖玉（一二二ウ）

聖琢（一二二ウ）

心源院源浚（一二二ウ・一二三才・一二三ウ）

澄心寺福憲（一二二ウ）

光隣（一二二ウ）（芳卿光隣へ一五三六〽東福寺二〇〇世）

擇勝軒利宮（一二二ウ・一二三才・一二三ウ）

妙徳奉行光璘（一二三才）

寶勝院光悦（一二三才）（檀叔光悦・『五山禪林宗派図』九一頁）

聖珍都寺（一二三才）

奉行光瓚（一二三ウ・一二四才）（圭甫光瓚・『五山禪林宗派図』九〇頁）

奉行爲都（一二三ウ・一二四才）

光堯（一二三ウ）（仁如光堯・『五山禪林宗派図』九一頁）

以上のように、大変多くの禪者を挙げている。特に「草飯座牌図」や各種書式に見られる名前は、その時代に活躍した、首座・蔵主・塔主、さらに座元・沙弥等の禪者を如実に表したもので、余り例がない。特に座牌図は、その肩書きのみを記すことにより、普遍性を持たせるのが通例である。因みに、冒頭の「東班位次」はじめ二月の「初午役

者坐牌図」「初午懺法坐牌図」、開山忌の「坐牌列盛図」等は、配役名のみである。

さて、こうした中、特に注記として引用される、禪者の箇所を挙げておこう。(傍線、筆者)

【汝川】 汝川正三 『五山禪林宗派図』「聖一派・本成門派」(一四二頁)

- ① 一 汝川ノ云ク、前堂後堂者、以ニ拄杖一爲ニ持物ト、書記以ニ竹篋一爲ニ持物ト、但シ以大慧爲ニ開山一故也、東西藏者、以レ經爲ニ持物ト、(一〇二ウ)

【文林】 文林爲郁 『五山禪林宗派図』「聖一派・三聖門派・愚直下」(九〇頁)

- ① 一 秉拂前日ノ早朝、一行事歸_リニ
(中略) 故ニ都寺自持_レ榜ヲ、到_ル首座寮ニ也、

右ハ文林和尚ノ冊子ニテ寫_レ之、(七七オウ)

② 一 粥僧堂文林ノ記録 聞_テ開靜ヲ、前板率ニ下頭首ヲ、到_テ僧堂ニ、自_レ前板ニ次第ニ入堂、後堂ハ者直ニ透_テ聖龕ノ左邊、

到_ル後堂床ニ、前堂以下者、皆立_テ首座床ノ前ニ、待_ツ住持ノ到_ルヲ、住持到_レハ、則各問訊ノ著_レ座ニ也、(下略)
(八一ウ〜八二オ)

③ 一 文林和尚ノ記録ニ曰、當寮書記 祖師、或曰黃龍、或曰大慧ト、今也觀_ニ當寮ニ所掛之頂相ヲ者、實大慧ノ像也、

亦何_ソ疑_ハン乎、(一〇二ウ)

④ 一 祝聖之時ハ、住持先_ツ三尊ニ焼香ハ、セイデ、問_ニ訊_ソ兩班ニ、本尊バカリニ焼_レ香也、祝聖畢_テ、又三尊ニ焼_レ香ノ、サウデ維那學經也、祝聖時ハ、消災咒_ニモ打_レ磬ヲ也、文林ノ記之(一一一ウ)

【宗澄首座・壽超首座】

① 龍眠ノ宗澄首座、前板煖齋ノ報_ニ、不_レ借_ニ出世ノ名ヲ、直_ニ書_ス宗澄拜請ト、曰_ク已_ニ於_テ其ノ寮ニ辨_レ齋ヲ、而頭首ノ焼_レ香之也、至_レ報_ニ獨_リ借_ルニ「出世之名」ヲ、無_レシト謂_ハル云_フ、於_テ義_ニ如何、

栗棘ノ壽超首座前板ノ煖齋ニモ、亦自書ニ其名ヲ也、（一〇四オ〜ウ）

【竹卿西堂・仁室西堂・久藏主】

① 永明院ノ開山三百年忌

慶長三_戊年、三月九日、五日ニ竹卿西堂、窺フ諸老ノ隙ヲ也、六日ニ仁室西堂、口ニ報ニ諸老ニ廻ル也、平僧衆、
者、久藏主持_{モツ}レ報_ラ廻_ル也、四日報也、（一一四オ）

内容に関しては、特に触れないが、「汝川・文林」など特定の禅者の意見、過去の事例を積極的に参照し、その編集時に引用していることがわかる。

これらは、当時の東福寺特有の行事解釈だったのか、今後他寺院での清規・事例との比較において様々な面が明らかになるのではなからうか。

おわりに

以上、本清規の成立時期・内容、そこに記される禅者を取り上げてみた。その特徴に関しては最終的には本史料を参照して頂きたいが、今後の清規研究の一助となることを祈念して本論を閉じることとする。

※最後に、本資料の閲覧及び翻刻を御快諾下さった京都大学文学部図書館に対して一言記して謝意を表したい。

凡例

- 一、京都大学文学部図書館所蔵『東福寺清規』の翻刻である。
但し、紙幅の関係で六九丁十月「開山忌」までの翻刻である。
- 一、本清規は、一卷一二四丁・疑誤・名目一丁・東福寺所領目録五丁で欠丁はない。
- 一、翻刻にあたっては、改行箇所及び空白に関して全て原本に準じた。
- 一、返り点・ルビに関しては、原本に忠実おこなった。
- 一、字体の相違もできるだけ原本通りとした。
応―應・略―畧・貳―二・礼―禮等。
しかし、俗字・異体字・略字に関しては全部、あるいは部分的に字体を改めたものもある。
- 一、熟語の場合、豎点（・）で結ぶ記号があるが、煩雑さを避けるため割愛した。
- 一、割注・註記等も、原本に準じた。なお、六二オ・六二ウの頭注は「」で指示した。
- 一、（ ）で示したのが丁数である、数字は冒頭からの通し番号、オは表、ウは裏を示す。

東福寺清規（外題）

慧日山東福禪寺

開山聖一國師曰圓爾、嗣_二無準_一、駿州人也、塔曰常樂、

十境

妙雲閣 成就宮 潮音堂 千松林 思遠池
洗玉礪 甘露井 選佛場 旃檀林 通天閣

十三塔頭

圓通寺 寶覺禪師_三 聖寺、開山之_三 正統院 法照禪師

龍吟菴 大明國師 大慈菴 佛通禪師

栗棘菴 佛照禪師 盛光院 佛印禪師

正覺院 佛智禪師 莊嚴藏院 南山和尚

永明院 圓鑑禪師 桂昌菴 雙峯國師

東光寺 大智海禪師 大雄菴 天柱和尚

大織冠鎌足_二二十一_一代光明峯寺關白左大臣

藤原道家公之四男賴經、自_二賴朝_一第四代母、准三后從一位倫子西園寺太政大臣藤原、

（二才）

公經公ノ娘^メ

(二ウ)

定

- 一 方丈四節交代并常樂交代住持塔主共可爲布衣七條事
 - 一 開山月忌始、無準忌、普門寺祖忌、常樂十五日祖忌七月小施餓鬼浴佛臘八除夜住持塔主頭首維那之外各可爲布衣事
 - 一 二月廿一日檀那忌、住持頭首維那其外老弱可爲布衣事
 - 一 年中旦望開山月忌、宿忌半齋并三日祈禱、住持頭首維那可爲布衣事
 - 一 住持内報可爲布衣、但頭首維那内報如先規可爲^二道具^一事
 - 一 維那祝齋住持諸老大衆維那各可爲布衣掛絡事
 - 一 兩檀那御誕生祈禱、可爲布衣事
 - 一 疏銘被^レ取時、住持維那共可爲布衣事
 - 一 十一月廿四日天台大師忌、住持維那可爲布衣事
 - 一 十二月十三日修正評定、各可爲布衣事
- 右條々以^レ衆評^レ攸^レ定如^レ斯

(二ウ)

慶長十巳年正月吉辰

西堂令柔

西堂龍玄

住持守藤

勝林聖澄

龍吟龍珊

三聖光澤

當寺年中勤行次第

一 東班西班之位次

一 正月元旦、諸堂行事次第

二 日大工之事始 三日孝明寺諷經

四 日於方丈點心、住持營之 五日懺法滿散

遷寮内報 維那内報 六日風呂

七日修正滿散 八日諸兩班官代

秉拂遷寮式 三八念誦

二月

一 初午懺法規式、付役者坐牌

一 殿裡立班之圖、并行導次第

一 點供規式 付不二岐隔和尚式 一列拜圖

一 佛涅槃 付涅槃之畫像、兆殿主筆、年号有之

一 前資行導并坐牌之事

(三才)

(三ウ)

一 廿一日光明峰寺殿年忌

三月

一 十八日無準忌

一 禪客評定 三月廿八日之此、以客頭、癩、諸老之際、
○四月一日指之、見于冬節之處。

四月

一 八日佛誕生 一 殿裡立班之圖 見于前

一 十三日啓建 午時衆寮諷經

一 十四日早晨小諷經 石塔諷經 戒臘牌 楞

嚴會 榜礼 晚間佛殿燒香三拜 見于冬節

土地堂念誦 大坐湯 常樂諷經 小參 目

子之書様有 茶堂湯禮 法堂習

一 十五日粥僧堂 祝聖 土地堂 祖師堂 祠

堂 茶堂茶禮 常樂諷經 同祠堂 榜礼

草飯 上堂 節礼 庫司礼 巡堂 楞嚴會

日中 茶礼 借法座 杖拂 湯礼 丈室

礼 侍香寮礼 塔頭習 藥 秉拂 茶堂湯

礼

一 十六日謝上堂 自頭首呈上謝語之紙於上方、
事見于冬節之處。

六月

(四才)

(四ウ)

一 日打扇^ハ者自^ニ半夏^ニ行^レ之 淋汗ノ風呂

一 十八日妙雲閣懺法

七月

一 七夕就^ニ方丈^ニ冷麵儀式、并報、一看經榜

一 十三日楞嚴會滿散 晚間 衆寮諷經

一 十四日早晨、僧堂下間、掛點湯牌、晚間掛念誦

與小參牌 都寺往^ニ方丈^下與^ニ首座寮^ニ、有^ニ榜禮^一、土

地堂念誦 大坐湯 常樂諷經 小施

餓鬼 小參 茶堂茶禮

一 十五日 粥僧堂 祝聖 土地諷經 祖堂諷

經 法堂祠堂諷經 茶堂茶禮 常樂諷經

光明峯寺殿諷經 侍客往首座寮、有榜礼、齋

了上堂 節礼 庫司礼 巡堂 日中 僧堂

茶礼 晚間大施餓鬼 今日僧堂、上間掛巡堂

牌、下間掛點茶牌、施餓鬼位牌 五岳之書様

一 十六日 諸兩班官代 見于正月八日之處

一 乘拂遷寮

九月

一 十七日 普門寺開山忌

十月

(五才)

(五ウ)

- 一 朔日^カ二日ニ達磨忌ノ疏ノ銘ヲ、維那ノトル、案内ヲ云、
- 一 四日 達磨忌宿忌 點供 九拜
- 一 五日 韋駄天諷經 日中 祖堂諷經 法堂祠
- 一 堂諷經 獻粥 齋了達磨半齋 著法衣十八
- 一 拜 拈香 報^{スル}列拜ノ圖、時、著^テ平衣ニ而列拜、半齋
- 一 祖忌 常樂、祠堂、請取、書樣、齋料、送狀、書樣 一十五日開山忌
- 一 就于常樂菴小齋 一十六日開山宿忌 一三
- 一 常樂 一二佛殿 二三法堂 點供九拜 次ニ諷經
- 一 開山忌ノ報并方丈ノ列モリ坐牌圖
- 一 十七日 早晨佛殿ノ粥諷經 法堂ノ獻粥
- 一 常樂諷經 方丈ノ齋 齋後ニ法堂ノ半齋 法衣ニテ而
- 一 十八拜 拈香 平衣ニテ而列拜 半齋於佛殿ニ安
- 一 坐諷經 開山忌法堂ノ莊嚴 常樂莊嚴 十八
- 一 日懺法
- 一 禪客評定 冬節 一上堂小參ノ問禪 自ニ正月元旦ニ
- 一 至十二月除夜ニ差定 一秉拂ノ法語ヲ、呈上^{スル}上方ノ事、
- 一 上堂小參ノ問禪ヲ、呈上^{スル}上方ノ事 一榜ノ書樣 正月、結夏、冬節、
- 一 ○自住持書也 一秉拂ノ日、住持ノ諸道具 一上堂ノ法衣、
- 一 小參ノ平衣之事 一秉拂之前日ニ、都寺往ニ前堂寮ニ、
- 一 一榜ノ礼 一秉拂之前日之晚、住持於佛殿ニ燒香

(六才)

(六ウ)

三拜^ノ赴^ニ五社^ニ 一五社ノ土地堂念誦 一大坐湯

此^詳也 一大坐湯ノ後、諸兩班於^ニ首座寮之横廊下、

有^ニ小問訊^一、一常樂諷經 施餓鬼 小參^ハ、鼓一

通也 小參上堂^ノ之時、住持赴^ニ茶堂^一、付諸位侍者

沙彌^ノ式 一於^ニ法堂後門^一、諸兩班有^ニ謝語之禮^一、

茶堂ノ茶礼^詳也 法堂習

冬節秉拂當日

一 早晨 粥僧堂^詳也 祝聖 土地堂諷經 祖

堂諷經 法堂東間祠堂諷經 茶礼^茶 常樂

諷經并祠堂諷經 榜礼 草飯 禪客僕^{進^メテ果}

十錢、與^五 一上堂^詳也 諸兩班座下ノ問訊ノ次

第 節ノ礼^詳也 一秉拂ノ當日^ニ僧堂^ニ掛^下巡堂^下與^ニ點

供^一之牌^上事 一巡堂^詳也 一巡堂ノ燒香ノ次第^并

床^下ノ圖 日中 一茶礼ノ式^{僧堂^〇詳}

此^詳也 一杖拂^詳也 一丈室礼^同 一侍香寮^ノ

礼^同 一塔頭習^同 一句間ノ祝^同 一藥^同

一秉拂ノ鼓^ハ、一通也^{但囑^ニ下間、鼓} 一茶堂ノ茶礼^見

于冬節ノ前處 一今晚ノ牌^ハ、藏司寮之役也 一頭

首ノ僕^ノデタチノ事^{并禪客ノ僕} 一頭首當日束帶之

(七才)

事 一制頭首ノ帽子ヲ脱スル日限之事 一頭首ノ寮頭

當日ノ式之事 一頭首當日ノ隨身ノ事 一聖僧侍

者ノ禮子之事 一頭首當日ノ礼子之事 一謝語ノ

包紙ノ上ノ書付ケノ事 一前版寮ノ坐牌之事 一後板

寮ノ坐牌之事 一下拈提之事 一乘拂同班トウノ句

ミセ見ノ事 一乘拂ノ法堂習之事 一同門徒ノ習之

事 一乘拂寮ノ待ニ經營衆ヲ之事 一久ク不出之輩

出頭、則自ニ乘拂寮ニ、不時ニ報ニ草飯ニ也 一聖僧侍者ノ

イハレノ事 一兩節ノ乘拂ニ指合ヲ忌事 一乘拂謝

上堂ノ草飯ノ坐牌ノ事 一五頭首寮ノ開山ノ替カハル事

一鼓上堂 小參 乘拂 入院 退院 一前堂煖齋之事、并

後堂以下 一佛殿祈禱ノ燒香之事 一臘八之

式 天龍諷經 一臘月十日布薩羅漢供ノ差

定、佛殿ノ上間ノ柱ニ貼レ之、一同十二日自ニ上方ニ以ニ客

頭ニ前住衆參暇ヘ、明日之晚ニ修正評定ト觸ル也 同十

三日修正詳 一十四日放參畢沙喝上ニ維那寮ニ

乞暇 一正月ニ張ル榜ノ小卷物之事 一佛殿ノ修正

坐牌之事 維那書之 一維那寮ノ焙拂ヒ之事

一除夜諸行事ノ次第 一擊ニ風呂ノ鼓ニ事 一施浴ノ

(七ウ)

(八才)

- 位牌ノ書キ様事 一 風呂へ入ル次第ノ事 一 東序轉位、
- 次第 一 浴主ハ、雖ニ東序ト、約ニスル兩班ニ則西序也、
- 毎日ノ行事、住持懈怠之時、兩序代而燒香之事、
- 坐禪之式僧堂、首座之所主也 一 五頭首ノ坐禪之式
- 本寺ノ行事ノ次第 早晨 晡時 夏中ノカハリ
- 月中行事ノ次第日毎 一 祝聖ノ燒香之事
- 毎日檀那兩度祈禱之事
- 公方ノ祈禱之時之事 一 臨時ノ祈禱之時之事
- 毎月旦望ト十七日ト、自ニ常樂諷經一歸時、下位ノ兩班亦
- 隨ニ前堂三至ニ前堂寮前ニ歸寮相向問訊如レ常也、
- 永明院開山三百年忌式
- 大慈ノ開山三百年忌ノ式
- 凡照牌ト云ハ、牌ノ肩ニ貼レ紙掛ル牌ヲ云ソ、
- 侍狀ノ官錢ノ書様 一 後版ノ官錢ノ書様
- 逆修祠堂入牌料ノ書様 一 無拂出錢ノ請取書様
- 塔婆錢ノ請取ノ書様 一 方丈單寮ノ請取ノ書様
- 梨月西堂入牌料ノ請取ノ事
- 東堂祝齋料ノ請取ノ事 一 掛搭僧ノ目子ノ書様
- 沙喝掛搭ノ目子ノ書様 一 珍都寺弟子ニ讓リ與ル支配

(八ウ)

(九オ)

之書様ノ事 一寄進祠堂錢ノ請取ノ事

一立石塔一地子錢ノ之請取ノ事

(九ウ)

東班位次

入寺法語謝語次第

都寺禪師

西班牙堂中第一座禪師

監寺禪師

後板座二元禪師

悅衆禪師

記室禪師

副寺禪師

藏司禪師

典坐禪師

藏主禪師

浴室禪師

知賓禪師

直歲禪師

侍香禪師

上堂問話禪師

(二〇才)

小參問話禪師

侍狀禪師

侍客禪師

侍衣禪師

侍藥禪師

(二〇ウ)

元旦

粥僧堂 礼子見
王前

祝聖 粥
無之

土地堂諷經 大
消

祖堂諷經 大
災

法堂祠堂諷經 上
大

常 悲
咒

樂諷經附祠堂諷 齋了上堂 節礼礼子見 庫

司礼礼子見 巡堂礼子見 懺法方丈 羅漢供

日中尊勝陀羅尼、觀音經、消災咒 茶禮凡自元旦至第三日有茶礼、元日有住持、

茶侍香代テ而巡堂、第二日者都寺、第三日者皆座 看經都寺引貝故警大、悲咒、引貝畢時、維

那摩藏經、自第二日不引貝、故學大悲咒

正月修正、并善月看經之事、殿裡ナカトコロ敷ナカトコロ長床ナカトコロ各坐ナカトコロ看經

也、住持燒香須ハク履ハク侍香モ亦著ハイ履ハイ可レ從レ之、今時或ハ侍

香脱クハ履クハ者非法也、或ハ住持モ亦有レ脱スル履者一、禮樂之泯スル甚シ

矣 放參楞嚴咒、觀音經、大悲咒、消災咒

正月朔旦、點心ノ胡餅、大衆并頂相ハ五ケ、住持ハ八ケ、東

堂ハ七ケ、西堂并座元ハ六ケ、參暇西堂ハ七ケ、但シ平西堂

ナミニ六ケニテ、參暇ノ分ニ一ケ渡ル心也、元旦ニオクルゾ、捻ッ

是ハ行者ガ、ヨリヤオテ、奉行ノツカセタル事ナレトモ、一旦

行恩ノ兄弟ガ代ニ、シツケテアル程ホトニ、兄弟ガ役ノヤオ二見ハ

タレトモ、サオデハ無シ、門前ノ諸職人、イモジ、油オリニ至ルマデ、

盡ク受ル也、大工ハ三分、イントオハ二分受ル也、

二日

五社諷經楞嚴咒、消災咒 粥諷經觀音經、消災咒 祖師

堂大 祠堂下間、大 齋了懺法 羅漢供 大

工ノ事始殿前、佛 日中 茶禮 看經 放參

(一一才)

(一一ウ)

三日

祖堂諷經楞嚴咒 粥諷經 齋了懺法 羅漢供

日中 茶礼 看經 孝明寺諷經楞嚴咒 大悲咒 消災咒 即多聞

諷經也 略放參

四日

火德諷經 粥諷經 方丈齋 懺法 羅漢供

日中 看經 放參

正月四日、函丈點心報、豎紙也、前三日、客頭報之

來、日就于

函丈點心

侍衣——拜請

温如座元謹奉

文峯座元謹奉

——都寺

——首座

沙喝

——沙彌

——喝食

單寮者道號、蒙堂以下至沙喝、雙字名、

坐禪者、雙字名也

大衆粥諷經畢、至三函丈、自二上東堂西堂、以三耆舊次第、

與侍香、問訊就座、侍香者立唐戶左、接大衆、大衆就

(一一才)

(一一ウ)

レ座畢マ、行者點レ燭、於レ是侍香進立テ中央ニ問訊ノ、而執ニ大香
合ニ燒香問訊ソ立ツ中央ニ、其後行者行ニテ銀盞ヲ點レ湯、喫レ湯了ル
時、侍香一步進テ而問訊ソ退去ル、然ソ至テ長老ノ前ニ問訊ソ、就レテ座
喫レ湯、其後行者先ッ於ニ四首頭前ニ問訊メ、執ニ銀盞ニ、次行ニ點
心ニ也、長老出ニ中門ニ、送ニ大衆ニ、

五日

韋駄天諷經 粥諷經 懺法并滿散

一 五日 方丈滿散儀式

緣外掛銀錢經馬、本尊ノ左右高燭臺點レ燭、几子備ニ洗

米及茶湯ニ、不レ立ニ兩班ニ、住持者向レ東西方ニ立班、大衆皆

隨フ其後ニ、維那脱帽子ニ、進至ニ本尊前ニ、供ニ茶湯ニ、故袖裡ニ持ス

香合ニ、退立ニ唐戸左邊ニ、而擧ニ楞嚴咒ニ、讀レ疏畢マ、聞レ磬更擧ニ

消災咒ニ、放レ是維那進ニ本尊前ニ、取ニ茶湯ニ出ニ緣外ニ捨レ之、行

者取ニ疏及經馬等ニ、於ニ方丈庭ニ祭レ之、期日維那者、先ッ著ニ

打眠衣ニ、赴ニ方丈ニ、請ニ諸役者ニ、大悲咒畢マ、至ルニ心一時、歸レ寮ニ

改ニ威儀ニ、至ニ觀音經ニ、更赴ニ方丈ニ也、故維那者、期日不レ打

磬ヲ、雇ニ他ノ懺法衆ニ打レシム之、鉢ハ者三雙、鼓亦三雙、但鼓者二

雙亦可也、

六日

(二三オ)

(二三ウ)

普庵諷經 楞嚴咒
消災咒 粥諷經 齋了羅漢供 日中

看經 放參 風呂

七日 羅漢供、自維那寮(僧衆出、卷羅漢)繪

粥諷經 齋了羅漢供 日中 看經并滿散

略放參

一 正月八日、諸兩班官代之事、他寺者、盡十六日官代

也、當山八日倡官代者、蓋國師十六日欲赴建仁之官代故預於八日也、結夏十三日啓建之類也、

官代規式

東西ノ兩班相共ニ到ニ無價軒、而先ツ東序不レ立レ香、與ニ住持

觸禮、觸禮畢、而出ニ縁外、次ニ西序與ニ住持ニ觸禮、然後兩

序共ニ到ニ茶堂、東序ハ者入口床ト、自ニ西ノ首ニ至レ東相並テ居ス、西

序ハ者入口ノ床ニ自レ東至レ西相並テ居ス、位次未レ定故ニ謂ヒ之ヲ胡

亂座、亦謂ニ不臘次ト也、住持ハ者坐ニ中央ノ椅子、於レ是點ス茶、

此ノ茶ハ者住持爲メニ定ニ兩班ノ之位、聚ニ大衆ニ相接待スルノ之茶也、

喫テ茶畢、請客頭以ニ目紙ヲ奉ニ住持ニ、住持下ニ椅子ニ西向キニ立テ、

先ツ讀ニ東序ノ目紙、於レ是侍客進テ、自レ首ヲ次第ニ請ス東序、東序

受テ請、乃テ都寺引ニ維那監寺ニ到ニ住持ノ前、先ツ小問訊ク、都寺

一人立テ、香、兩扇觸禮、觸禮畢テ而都寺引ニ維那監寺ヲ、到ニ

(二四才)

(二四ウ)

茶堂ノ横廊下^一、東ノ壁ニ北ヲ爲^レ首向^テ西立也^一、次^ニ住持讀^ニ西序ノ目紙^一、侍客進^テ自^ニ首座^ニ次^ニ請^ニ西序^一、首座乃引^テ後堂以下^一、到^ニ住持前^一、先^ッ小問訊^ノ、首座一人立^テ香觸禮、觸禮畢、而首座引^ニ後堂以下^一、到^ニ茶堂横廊下^一、西ノ壁ニ北ヲ爲^レ首向^テ東立也^一、其後又兩序共^ニ入^ニ茶堂^ノ中^ニ有^ニ湯礼^一也、侍香ハ立^ニ入口之上間^ニ接^レス之^一、先^ッ西序自^ニ下位^ニ入^ル、其後東序自^ニ下^ノ位^ニ入^ル、皆與^テ侍香^一問訊^ノ入也、住持ハ者坐^ニ中央ノ椅子^ニ、首座者坐^ニ住持右邊之椅子^ニ、都寺者坐^ニ住持左邊ノ椅子^ニ、監寺坐^ニ住持左邊之横^{ナル}床^一、後堂者坐^ニ住持右邊之横床^一、維那者坐^ニ上間之豎床^一、書記以下者坐^ニ下間之豎床^一、皆以^レ北爲^レ首也、各到^ニ其位^ニ先立^テ待^ニ侍者揖坐之礼^一也、於^レ是侍者進^ニ中央^ニ問訊、其時各坐也、是揖坐ノ礼也、自^ニ揖坐ノ礼^ニ至^ニ揖湯ノ礼^ニマテ、其マ、ソコニ居テスルゾ、衆皆坐^ノ後、侍香取^ニ大香合^一、以^ニ右手^ニ炷^レ香問訊、是揖香ノ礼也、衆喫^レ湯畢^テ、侍香又問訊^ノ出也、是揖湯ノ礼也、「湯ノ礼終^{マテ}衆出^ニ茶堂^一時、與^ニ住持^ニ於^ニ茶堂^ノ之入口^ニ問訊^{スル}者兩度矣、住持者東邊^ニ向^レ西立^テ、兩序ハ者西邊^ニ向^レ東立^ツ、以^レ南爲^レ首、東序ハ者立^テ前、西序ハ者立^ツ其後^一、相重^{マテ}與^ニ住持^ニ問訊^ス也、「次住持於^ニ僧堂^ニ授^ニ被位^ヲ於^ニ西序^一也、先^ッ兩序相共^ニ到^ニ僧堂^一、首座

(二五ウ)

以下者立^ニ首座床之前^一、後堂者立^ニ後堂床之前^一、皆差^ニ下^一其位^一ヨリモ、暫^ク待^ツ住持ノ之授^ニ被位^一也、東序ハ者煖簾ノ下^ニ東爲^レ首、自^ニ知客床ノ床首^一至^ニ聖僧床ノ邊^一、相^ヒ並立^ツ也、侍者^{外平}戶僧堂之北ノ床ニ南^ヲ爲^レ首、相並立^ツ也、於^レ是先^ツ鳴^ニ堂前ノ鐘^一、住持到^ニ首座^一問訊^ノ、接^{シ上}首座ノ位^一、相向^テ問訊觸礼、然^ノ住持^ハ透^ニ聖龕ノ左邊^一、到^ニ後堂ノ前^一問訊^ノ、接^{シ上}後堂ノ位^一相向^テ問訊觸礼、然^ノ住持^ハ自^ニ後堂ノ床直^ニ過^ニ北邊^一屈轉^{トマ}廻^マ、到^ニ書記ノ前^一問訊、與^ニ東西藏^一一種^ニ接^{シ上}ケル^一也、相向^テ問訊觸礼、然^ノ住持^ハ者立^ニ椅子ノ前^一居^{スル}也、此^ノ後^ハ東序ノ巡堂也、先行者持^ニ東序ノ目紙^一奉^ニ住持^一、侍香透^ニ聖龕ノ右邊^一過^ニ左邊^一到^ニ住持ノ前^一問訊ノ受^ニ目紙^一插^ニ左脇^一至^ニ槌邊^一也、侍香乃自^ニ住持ノ手^一受^ニ其^一目紙^一、透^ニ聖龕ノ左邊^一行^テ槌ノ邊^一鳴^レ槌一下^ノ、讀^ニ目紙^一也、讀^ニ目紙^一畢^テ鳴^レ槌一下^ス、於^レ是侍客請^ニ東序^一、都寺引^ニ維那監寺^一到^ニ住持ノ前^一、相並問訊、兩展觸礼^ス也、次^ニ都寺引^ニ維那監寺^一透^ニ聖龕ノ左邊^一過^ニ右邊^一、到^ニ聖龕ノ前^一、都寺一人炷^レ香三拜、三拜畢^テ而具^ニ威儀^一、自^ニ爐邊^一南^ニ、向^レ北^一相並^テ立^テ也、於^レ是侍香自^ニ槌邊^一透^ニ聖龕ノ左^一、到^ニ東序ノ前^一問訊^ノ、侍香引^ニ東序ノ巡堂一^一也、巡堂畢^テ而東序立^ニ煖簾ノ下^一如^レ初^一也、然^ノ侍香者透^ニ聖龕ノ左邊^一往^ニ槌邊^一鳴^レ槌一下^ノ云、請^シ知事^ヲ訖^シ矣、於^レ

(二六オ)

レ是行者報ソ曰、知事礼謝大衆サライ作礼觸礼、大衆盡ク觸礼ス、

行者又報ソ曰、大衆普同作礼觸礼、大衆又觸礼也、」今

於ニ僧堂ニ讀ム「ハ、目紙一者、只限ル東序ニ耳、僧堂ハ者無シ東序ノ班一、今

新ニ讀テ目紙一令セシム「ハ、巡堂ニ、令ニ東序掛ニ搭テ于僧堂ニ之儀也、」西序

者ハ已ニ有ル某某ノ之班位一、是以別ニ不レ及レ讀ニ目紙一、只授ル被位一

耳、」觸礼畢テ、而行者又報ソ曰、大衆送ニ新知事一歸セシム庫司ニ、都

寺乃引ニ維那監寺一、自ニ佛殿ノ前ニ置路一到ニ香積ニ、韋駄天ノ右

邊ニ東ヲ爲レ首ト、少差シ下サガ位ヲ相並テ立ツ也、住持到ニ庫司一韋駄天ノ

左邊ニ向レ北ニ立テ、與ニ都寺一問訊、與ニ維那監寺一種ニ接シ上ケ位ニ

相向テ問訊觸礼、是レ乃住持度ニ與寮ヲ於東序ニ之義也、東

序ノ礼ハ於レ是終ル矣、」此ノ後住持度ニ寮ヲ於西序ニ也、五頭首ハ者

自ニ僧堂ニ歸テ、各立ニ某某ノ寮ノ前ニ、維那者自ニ香積一歸テ、立ニ維

那寮ノ前一也、住持自ニ香積一直ニ到ニ首座ノ寮一度ニ寮ヲ於首座一、住

持者立チ上間ニ、首座ハ者立ツ下間ニ、先ツ於テ履脱ノ下ニ問訊ノ、到ニ客

殿ノ中一相向テ問訊觸礼、不レ立レ香也、住持歸ル時キ、首座自ニ住

持ニ前ニ到ニ廊下ニ、與ニ住持一相向テ問訊也、度ニ首座寮ヲ畢、而次

到ニ維那寮一、次後堂次書記次東西藏、礼子如ニ首座寮一、

也、」此後舊兩班爲ニ新兩班一度ニ某某ノ寮一也、入ニ客殿ノ中一、先

舊兩班者立ニ主位一、新兩班者立ニ賓位一、相向問訊觸礼、

（二六ウ）

（二七オ）

不立_レ香、然後又舊兩班者立_二賓位_ニ、新兩班者立_二主位_ニ、
相向問訊觸礼也、維那者維那、首座者首座、各各如_シ

(一七ウ)

レ此也、其後自_二衣鉢閣_一、送_二侍者ノ目紙於維那寮_ニ、四人ノ侍
者上_二維那寮_ニ、於_レ是客頭度_ニ與_ス目紙於維那_一、立_二ナカラ_一讀_二目紙_ニ、
讀_二目紙_一畢_マ、侍者首_一一人立_レ香觸礼、觸礼畢_テ坐_レ喫茶_ニ也、
然_レ而維那引_テ四人之侍者_一到_ル無價軒_一、維那者不_レ入_レ内_ニ

而立_二戸外_ニ、待_二侍者之礼_一終_ル也、侍者入_レ内首一人立_レ香、
與_二住持_一相向問訊觸礼、觸礼畢而坐_レ有_二湯ノ礼_一、於_レ是維

那自_二戸外_一入_レ内、坐_レ侍者ノ之首_ニ喫_レ湯也、只今維那到_二ハ方
丈_ニ者爲_レ加_ニ此_一湯ノ礼_ニ也、自_レ其侍者歸_二某某之寮_一、先各立_二
履脱之前_一待_二維那_一也、維那往_二侍香寮_一、各自_ニ度_レ寮_ニ、猶_シ如_レ
住持之度_二寮_一於五頭首_一之礼_上也、侍者_ニ授_二被位_一、及_レ度_レス_二ハ寮_一
者維那ノ職也、次_二舊侍者爲_二當侍者_一各自_ニ度_レ寮_ニ、五頭首
等之互_ニ如_レ度_レ寮_一之礼_ニ也、総_レ東知事者、住持自_二無_レ度_レ寮_一
也

(一八才)

永正十一乙亥年正月晦日、光東書記汪寮

正月八日 秉拂 遷寮次第

一 正月五日、遷寮内報

維那内報

一 頭内報之礼、杉原十帖、扇子一本、送之侍衣也

一 八日遷寮之日、即報結制草飯報曰來結制就_{前板}

書記藏
寺藏司

寮、草飯、――西堂者爲_二諸老_一報_レ之、侍者_ハ者爲_二

平僧_一報_レ之

(二八ウ)

一 遷寮之日、頭首具_二威儀_一、巡_二諸塔頭之礼_一、若有_二襪子扇
子樽等贈、則隔_レ日而往謝焉、或袖_二孔方_一而有來者、頭
首自持_レ之、往謝而還_レ之、

一 遷寮當晚藥石、兩汁三菜、被_レ待_セ小門徒上下一堂之
衆

一 每日行事頭首出入共_二先立_二履脱之前_一、與_二同伴_一相向
問訊而後進也、凡_レ以_二維那之出_一爲_レ期、

一 ^焉每晚鯨刻、頭首著_二布衣七條_一、七堂燒香、

若有_二住持入坐禪時者、放參之次著_二羅衣_一、直_二燒香_一、不
然者爲_二後坐禪_一之故也、

一 頭首行事懈怠之時者、先報_二懈怠於同伴_一、

一 五頭首入坐禪儀式 見_二于坐
禪部_一

(二九才)

正月十一日吉書ノ案文

東福寺吉書

天下泰平國土安全、寺門繁昌砌也、當寺領賀州熊

坂庄、周坊國得地三箇村、并諸庄園豐饒、而所_レ全寺
務_一也、殊新御寄進地有_レ之、任_二先例_一米錢等每日令_二寺
納_一、富貴萬福、千喜萬悅、千秋萬歲、千秋萬歲、

慶長十_二年、正月十一日

納御寺領米錢之事

合 萬萬解
萬萬買者

右攸納之狀如件

慶長十_二年正月十一日

東福寺 都聞 納所

二月十日 後板寮招_二書記寮_一之一衆_一、而貼待冷麵_畢

及_レ薯蕷羹、五種_ノ果子、食籠等、以備_レ之、寶勝妙德_ノ二老_モ

亦見_レ赴_二其座_一、凡有_二同伴_一、則互_ニ脩_ニスル_一「隣好_一、例_ノ而如_レ此矣、

二月十二日、於_二寶勝院_一小齋、招_二門徒一堂并滿山_一、行

者_一衆、凡遷寮之祝_ハ者、放當_ニ於_二其_一日_ニ也、然_ル遷寮之日者

事繁_ノ而不_レ暇_レ調_レ之、故延而至_二今日_一焉耳、齋者兩汁四

菜、五種_ノ果子、以_二各盞_一行_レ酒_ヲ、依_レ表_ニスル_ニ祝義_一臨_レ齋_ニ而先_ツ出_二土

器_ノ盃_一也、皆著_二羅衣_一而掛_二五條_一也、書記出而相伴門送、

二月十七日、書記寮招_二後板寮_一之一衆_一、貼待湯漬六

菜一汁、以_二湖月常樂_一爲_二加請_一、書記出_テ而相伴、後板者

居_二主位_一、書記者居_二賓位_一、來賓之衆者、皆著_二羅衣_一、給仕

(二九ウ)

(二〇オ)

一 之衆ハ者、皆著ニ布衣ニ也、客歸ル時書記下^{リテ}縁外ニ門送、

八日 三八念誦 毎月、八日、十八日、廿八日

住持聞ニ大鐘ニ自ニ後門ニ入ニ佛殿ニ、諸堂燒香、到ニ尊前ニ時、
鳴ニ燒香ノ鐘、然而自ニ西之口ニ出、而到ニ僧堂ニ也、

頭首者知客床ノ前ニ以レ北爲レ首ニ列ニ立ツ也、維那者戶僧

堂之入口之左邊ニ向レ西立也、住持入レ堂而先往ニ聖龕、

前ニ燒香三拜、次ニ煖簾^{ナカレシ}ノ下ニ向レ東立也、於レ是維那一步進^テ

而問訊ノ唱ニ念誦、念誦畢而行者報曰、大衆免巡堂^ト、於

レ是住持者戶僧堂ノ北ノ方ニ向レ南ニ立ツ、維那者南ノ方ニ向レ北

立ツ、頭首亦與ニ維那ニ其後^ト相重テ立^テ、與ニ住持ニ小問訊^{スル}兩度

也、免巡堂^ト者免人事之義也、上古^ニ者三八^ニ有ニ湯ノ礼并

巡堂、今ハ略^ス之、故報^テ曰ニ免巡堂ニ也、礼終^テ而頭首者自ニ西

廊ニ透^マ、自ニ西ノ口ニ入ニ佛殿ニ也、東序ハ者自ニ置路^ヲニ透^マ、而自ニ正西^ニ

之東ノ口ニ入ニ佛殿ニ也、住持亦自ニ正面ニ入ニ佛殿ニ也、

二月

一 初午懺法規式 導師香華鈸鼓及磬并自歸等

之諸役者、盡書之引合、維那具ニ威儀ニ持^レ之往報焉、上

古者、維那自定ニ役者、今者諸老定^レ之、先於ニ兼曰ニ鈸鼓

之役者、聚^テ於維那寮^ニ習^{ラス}之、維那爲^レ之點湯也、云云

(二〇ウ)

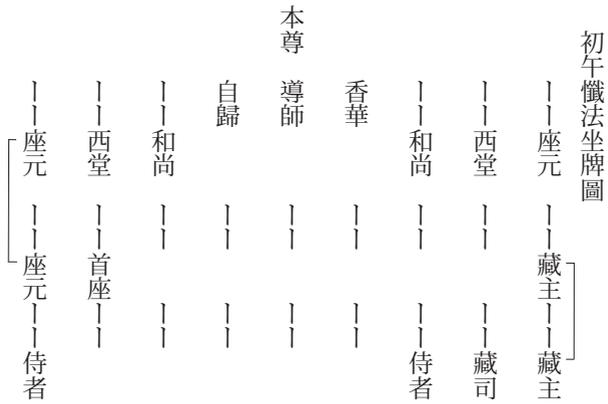
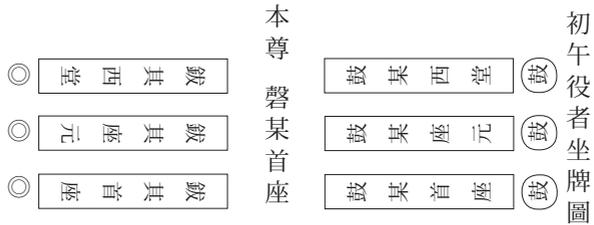
(二一オ)

方丈莊嚴、自_二維那寮_一辨_レ之、三十三幅觀音ノ前、掛_二打敷_一
 華瓶香爐洗米_一、_一備_レ之_ラ、以_二杉原_一盛_二大衆ノ坐牌_一、鉞者
 古雖_二五雙_一、今者定_ム之_三雙_二、舊者立_ニ鉞_一、撞_レ之_ラ、今者坐_テ撞_レ之_ラ、
 維那達_ノ者_ノ、代_ニ維那_一擊_レ磬_ヲ、維那者始_メ自_二大悲咒_一至_ニ爾_マテ_一
 心_ニ、逢_ニ懺法_一、先歸寮_ヲ、滿散之時、重改_ニ衣儀_一來_ル也、請_ニ鉞鼓_一
 導師香華等之役者_一、亦維那請_ス之、請_{スル}時者脱_テ帽_ヲ挿_ム坐
 具_一、相向問訊也、頭首_ハ者滿散_ノ之時、始_テ至_ニ方丈_一耳、住持
 燒香兩班如_シ常也、滿散之時、掛_ニ經馬_一於_ニ廣縁_一之柱_ニ、維
 那讀_レ疏畢後、堂司又鳴_レ磬、維那更舉_ス消災咒_一、此時都
 寺捨_ル茶湯_ヲ如_シ常、誦_ニ消災咒_一畢時鳴_ニ後勸請之鉞_一也、後
 勸請_ノ鉞_ヲ者立_ニナカラ_一撞_レ之、無_ニ住持_一時_ハ首座燒香、
 初午懺法、上古者三十三人而讀_レ之、相公寄_ニ進_{スル}華被_一
 者三百矣、依_レ此闔山ノ清衆、盡赴_ニ其場_一耳、
 前一日鉞鼓之役者、到_ニ維那寮_一習_レ之、早晨自_ニ維那寮_一、
 以_レ僧報曰、晚間來_テ可_レ被_レ習_レ鉞、臨_レ期更以_ニ使僧_一請_レ之、皆
 著_ニ布衣_一可_レ赴_也、
 懺法終_テ、不_レ祭_ニ經馬等_一者、初午之懺法者、蓋回祿之祈
 禱也、忌_レ火_ヲ之故_ニ不_レ祭_レ之也、
 滿散之時、高燭臺_ニ燭_一二挺_ヲ點_{スル}也、

(二二ウ)

(二二オ)

(二二ウ)



役者坐牌ハ皆引合也、其外平僧出世ラ不レ限ラ大衆

並^{ナミ}ノ坐牌ハ杉原也、

〔東堂ハ書院號ラ

導師 一^一西和堂尚

西堂ハ書院號ラ

自歸 一^一西和堂尚

〔平僧ハ双字名也若西堂則道号

香華 一^一首座

磬 一^一藏司

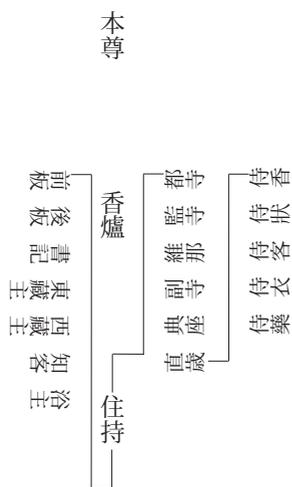
鈸 一^一

鼓 一^一

鈸 一^一

鼓 一^一

殿裡立班之圖、并出班燒香次第、行導之時ハ侍藥^方
一^チノ先也、



(二四才)

(二三ウ)

行道次第

侍藥ノ先也

- 一侍藥
- 二侍衣
- 三侍客
- 四侍狀
- 五侍香
- 六直歲
- 七典
- 座
- 八副寺
- 九維那
- 十監寺
- 十一都寺
- 十二住持
- 十三前堂
- 十四
- 後堂
- 十五書記
- 十六藏司
- 十七藏主
- 十八知客
- 十九浴主
- 廿大衆

立班ノ圖如シ此、點供ノ時ハ者、維那問訊ソ離レテ位、請ニ諸兩班ニ畢テ、
 歸ニ本ノ位ニ時、行者鳴レ鉞ヲ、於レ是諸ノ役者離レ位如レ此ノ立ッ也、請ニ
 兩班ニ之礼子ハ者、見ニ于不二之規式ニ也、

(二四ウ)

不二岐陽和尚點供規式

維那出レ位向ニ住持ニ問訊、住持立ニ東序ノ頭ニ、次維那向テ首
 座ニ問訊、不レ捨ニ問訊ニ而向ニ知賓之前ニ問訊畢、亦向ニ西堂ニ
 問訊畢、亦向ニ東單寮ニ問訊、不レ捨ニ問訊ニ而向ニ都寺ニ問訊、
 猶不レ捨ニ問訊ニ而向ニ直歲ニ問訊畢、則維那歸ニ于位ニ行者
 鳴レ鉞、而次第ニ薦ニ點供ニ矣、

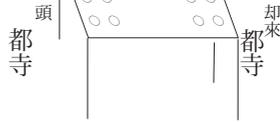
(二五オ)

侍和
侍和
上方
藍寺
維那
副寺
典座
直歲
參
暇

本尊
香爐

點供

參
禮
浴
衣
主
參
禮
藏
司
主
書
記
後
板
前
板
侍
者
侍
者



點供已畢時、行者叫「列礼圖」、於是諸兩班左右相分、

立「列拜圖」、如「此也」、見「于後面」也、

薦「點供」、無「侍者」則行者薦「之」、蓋無「住持」則無「侍者」也、

列拜圖之立班

侍藥
侍衣
侍客
侍狀

(二五ウ)

侍_二香合_一隨_二其後_一、次向_二諸東堂_一問訊、次向_二諸位西堂_一問訊、其次向_二東西序_一問訊、先請_二都寺_一、次請_二前板_一、次請_三監寺_二與_一後板_一、次請_三副寺_二與_一書記_一、次請_三典座_二與_一東藏_一、次請_三直歲_二與_一西藏_一、次請_二知客并浴主_一、此_二二人同時_一進_テ燒香時、維那進_テ三人相並燒香、維那即歸_ス本_レ位_一、於_レ是行者鳴_レ鈴、各各展_テ坐具_三拜_二、爲_ニ諸東堂_一聽叫敷_ク拜席_ラ也、列拜_ノ時者、諸位侍者_モ皆同_ク展_テ坐具_三拜_{スル}與_レ衆同_シ、凡出班燒香、進時_ハ叉手、退_ク時_ハ於_二佛前_一問訊_ノ、不_レ捨_二其_一問訊_ヲ歸_レ位也、退_ク時_ハ自_二下位_一前行_{スル}也、於_二爐前_一相並_テ先_ツ問訊_ノ東序燒香_ノ、次西序燒香_{スル}也、然_レ袖中_ニ收_テ香合_ヲ、退_ク「_三歩許_ハ許_ハ問訊_ノ去也、二祖_三佛如_レ此、

佛涅槃

一 早晨、先於_二經藏_一前_ニ、焚_二祝聖香_一、有_二香語_一、其後祝聖諷經、祝聖畢、於_二本尊_一前_ニ粥_ノ諷經、諷經畢_テ、東西序共自_二後門_一出_テ、直往_三茶堂_一茶礼、次常樂諷經、「齋退上堂、上堂不_レ蒸_二祝聖_一香_一、上堂畢_テ、東西序共_ニ直_ニ往_ニ佛殿_一半齋諷經、東序者自_二法堂面_一之東_ノ金剛垣_ニ出_ツ、西序_ハ者自_二同_キ面_一之西_ノ金剛垣_ニ出_テ、自_二佛殿_一後門_ニ至_テ本尊_一前_ニ立班、先鳴_レ鈸點供、次

(二七才)

(二七ウ)

一
九拜、次鳴^レ鉦出班燒香、次維那先讀^{レテ}疏^ヲ而半齋諷經、
啓唱^ハ者南無本師釋迦牟尼佛、回向者通回向、
晚間略^ニ放參及坐禪^一、以^レ故下^レ部而不^レ點^レ燈、
涅槃像者、應永十五戊子、兆殿主五十七歲、六月所
畫也、

（二八才）

三佛^ニ者、不^レ鳴^レ鐘而先^ツ上堂、上堂畢、鳴^レ鐘就^ニ大佛殿^一諷
經、先點供、次九拜、次出班燒香列拜畢、維那就^{レテ}位^ニ讀^テ
^レ疏^ヲ而始^ム啓唱^ヲ也、浴佛^ニ者、唱^ニ浴佛偈^ヲ也、
無^ニ住持^一則首座九拜、

三佛^ニ祖^ノ疏^ニハ、不^レ撞^{ツカ}印^ヲ也、

前資行道、并坐牌之事

行道者臘次第也、故雖^レ爲^ニ侍香之耆舊^一、行道時者可
^レ在^ル侍狀侍客等之下^ニ、坐牌者耆舊次第也、故今昨之

間雖^ニ度僧^ト、侍狀者可^レ在^ニ侍客之上^ニ、侍客者可^レ居^ニ侍藥

之上^一、侍香者可^レ居^ニ侍狀之上^一、他寺侍者、位已^ニ在^リ侍狀

之上^一、故可^レ盛^ニ坐牌^ヲ於侍香之下、侍狀之上^一也、行者之

時者、亦當^レ爲^ニ戒臘次第^一也、

浴主者雖^ニ東序^一、約^ニ兩班^一則西序也、

一
二月廿一日 光明峯寺殿年忌、前日於^ニ法堂^ニ宿忌、

（二八ウ）

此夕略ニ坐禪ニ、下レ部不レ點レ燈、

當日早晨、於ニ法堂ニ獻粥諷經、楞嚴咒、次於ニ常樂ニ半齋
諷經、同小齋、木坐牌、行者給仕、齋退於ニ法堂ニ半齋諷
經、安ニ影像ヲ於法座上ニ、備ニ鳩備菜ニ、

三月

(二九才)

一 十八日無準忌

十七日ノ晚宿忌

安ニ畫像ヲ於法座上ニ、而供ニ鳩備菜ニ也、宿忌先點供、次九
拜、茶礼時鳴鼓次諷經、回向入ル住持之名ニ、嘆佛ノ偈ハ者、

寶明空海一、伏願ノ句者、不捨悲心一、

十八日 早晨粥ノ諷經畢、赴ニ法堂ニ獻粥、舉ニ楞嚴咒一、回

向者通回向也、自レ其直赴ニ常樂之齋一、於ニ昭堂ニ半齋、不

レ立ニ兩班一、行道者耆舊次第也、齋者三日以前具ニ袈衣ヲ

口ツカラ報レ之、行者給仕也、齋退就テ法堂ニ半齋、先ツ住持著ニ法

衣ニ十八拜、次拈香、次住持脱ニ法衣ニ著ニ平衣一、出班燒香、

同ク列拜、其後半齋、舉ニ楞嚴咒一也、

慶長三戌年三月十八日

無準和尚三百五十年忌

一 十五日ニ、侍衣道具卸衣ニテ諸ヘ口報也、

座元以下ハ、書キ立テ、客頭持テ廻モツマハル也、

(二九ウ)

(杉原ヲ横折ニシテ、如クニ類講之報、
來十八日就于

函丈小齋

一 座元

琳 藏 司

維 那

侍 衣

興 侍 者

給 仕

璘 沙 彌

阿 毛 頭

一

十七日、宿忌以前ニ、常樂ノ無準木像ヲ、法堂ニ安坐スル也、宿忌ニハ

撞^ク大鐘^ヲ、大衆ハ老弱共^モ、道具也、先^ッ點供也、

點供ノ次第ハ、如^ク達磨忌開山忌^ノ也、

十八日ハ、火德調經、次ニ日中了^マ、於^テ法堂ニ獻粥燒香^ヲ、湯^ト茶^トヲ

受供^ヲ、燒香^ヲ、楞嚴咒通回向也、獻粥過^キ、赴^テ方丈ニ用^レ齋也、

方丈ノ客殿

無準ノ御影一幅、祖餉茶湯果子三具足、中央ニハ香臺ニ香

爐アリ、坐牌ハ引合也、四首頭有^ニ坐氈^一、接入之後ニ上方ニ

問訊^ヲナラル也、侍香接入^{スル}也、無^キ侍客^一故也、揖座揖香ハ侍

香燒^ク也、門送^ハ住持門内ノ東方ニ西向^ニ立^テ小問訊^ヲ送也、

(三〇才)

(三〇ウ)

齋後
半齋

- 一 住持著^{ケテ}法衣^ヲ、平衣^ヲハ、聴叫^ニ、手^ニ掛サセテ出也、
入^ニ法堂^ニ十八拜、イツモノ如ク也、十八拜了^テ、諸老立班^{スル}時^ニ、
住持拈^ニ瓣香^ヲ唱^ニ法語^ヲ、法語了^テ進^テ立^ニ香^ヲ歸^ル時^ニ、堂^方報^{スル}列拜
圖^ト時^ニ、住持東^ノ柱^ニ倚^リ、脱^キ法衣^ヲ掛^ニ平衣^ヲ、中央^ヘ出時^ニ、維那
高燭臺^ノ東^ノワキ^ヘ出^テ請^ス住持^ヲ、住持進^ニ燒^レ香^也、次^ニ前住
衆、次^ニ參暇、次^ニ前板^ト都寺^ト、次^ニ後板^ト維那^ト也、燒香^了テ、各坐
具^ノ一礼^ヲノ三拜^{スル}也、三拜了^テ、其マ、打^レ磬^ヲ、維那始^ニ半
齋^也、半齋了^マ、住持^ハ歸^也、餘^ノ諸老^ハ、有^ニ燒香^ニ三拜^一、

(三一才)

四月

八日 佛誕生 或号^ニ浴佛

- 一 三佛^ニ者^レ不^レ鳴^レ鐘、而先^ニ上堂、上堂畢鳴^レ鐘、就^ニ大佛殿^ニ諷
經、先^ツ點供、次九拜、無^ニ住持^一則首座九拜、次出班燒香、
列拜畢、維那就^テ位讀^レ疏、而始^ニ啓唱^一也、浴佛唱^ニ浴佛^ノ偈^一、
一 先^ツ鳴^ニ大鐘^一、次鳴^ニ堂前并殿鐘^一也、
鳴^レ鼓上堂、次到^ニ佛殿^ニ點供、次九拜、次出班燒香、兩序
者立^ニ長老^ノ左右^ニ列拜畢、立班如^レ常、維那即讀^レ疏、讀^レ疏

(三一ウ)

畢鳴レ磬學ニ浴佛ノ偈一、次ニ擧ス楞嚴咒一、自ニ點供ニ到レ唱ニ浴佛ノ偈一、
頭首并維那不レ著レ帽、擧ニ楞嚴咒一時、見ニ住持ノ著レ帽、頭首
維那皆著レ帽、唱ニ浴佛ノ偈一之間ハ者、各ク問訊ノ而行道、頭首
亦浴スル佛與レ衆同也、上堂以前、頭首者先往ニ僧堂ニ待ニ上
堂一、住持上堂畢、於ニ座下ニ小問訊、而後脫ニ法衣ニ著ニ平衣一、
到ニ佛殿一、西序ハ者自ニ正面ノ西ノ金剛垣ニ出テ、入ニ佛殿之後門ニ、
到ニ本尊ノ前ニ也、點供及出班燒香之間ハ者、大衆皆居ニ後
門一、列拜以後各到ニ正面一也、

(三二才)

義成殿

花堂ノ額也、銅盤ニ盛レ水ヲ、中ニ安ニ佛像一、浴レ之、案上ニ
備ニ香飯及鳩備菜一、

三佛ノ疏ニハ、印ツカヌソ、

(三二ウ)

見于前
殿裡立班圖如レ此

侍者
侍者
侍者
侍者
侍者
侍者

都監
都監
都監
都監
都監
都監

本尊
香爐
住持

前板
後板
書記
藏主
藏司
知客
浴主

(三三才)

結夏秉拂規式

十三日 啓建 午時 衆寮諷經 晚間 ○十四日早

晨小諷經 石塔諷經 戒臘牌燒香 但土地堂念誦以前

楞嚴會 榜礼 同夕晚間 土地堂念誦 有借香謝禮 雨時者

殿 大坐湯 常樂諷經 小參 於後門謝語礼 茶堂ノ湯

礼 法堂習○十五日粥僧堂 祝聖 土地堂 大悲

災 哭消 祖師堂 大悲 祠堂 大悲 茶礼 茶 常樂

諷經 同 祠堂榜礼 草飯 上堂 節礼 法 庫

司礼 巡堂 僧 楞嚴會 日中 茶礼 僧 借法

座 佛殿後門、但後堂不預之 杖拂 同 湯礼 丈室礼 侍香

寮礼 塔頭習 藥 煎 秉拂 茶堂湯礼

結夏秉拂規式

十三日 啓建 午時 衆寮諷經 晚間

楞嚴會規式

先ッ行者鳴 茶堂版、次鳴 大庫裡、次衆寮、次首座寮版、

於レ是維那持 香合、先往 常樂 燒香、次韋駄天堂、次選

僧堂、行者堂、禪 次山門、次五社、次衆寮、次僧堂、逐一

燒香畢、自 西ノ口 入 佛殿、先祖堂、次普菴、次經藏、次土

地、一一燒香、而到 三尊ノ前、先左邊、次右邊、次燒 香于

(三三ウ)

本尊^ニ、而到^ニ中央^ニ燒香畢、置^ニ香合於中央之卓子^ノ上^ニ也、
(三四才)

立^ニ華瓶^ノ下^ニ、先向^レ西立也、與^ニ楞嚴頭^ノ問訊向^レ北也、啓唱

後楞嚴咒、及^ニ南無因陀羅耶^ノ時^ニ又向^レ西也、又打^ニ散鈴^一

時、與^ニ楞嚴頭^ノ問訊向^レ北也、刺^ラ怛^ノ那^ノ雞^ノ都^ノ囉^ノ闍^ノ耶^ノ時、維

那取^ニ中央香合^一、自^ニ三尊^ノ前^ニ直往^ニ祖堂^ニ燒香、次普菴、次

經藏、次土地、次三尊、次中央也、又帝^チ鈇^サ薩^サ鞞^サ薩^サ婆^ボ

揭^ケ囉^ノ訶^ノ南^ノ時^ニ、亦維那燒香如^レ前也、結夏者維那先讀

レ疏也、讀^レ疏畢、楞嚴頭舉^ニ啓請^一、啓請畢讀^ニ佛母^一、讀^ニ佛母^一

畢楞嚴咒後啓請^モ亦楞嚴頭舉^レ之、然回向^ラハ維那讀^レ之

也、維那先華瓶^ノ下^ニ向^レ西立^ツ、待^テ住持^ノ來^一、與^ニ住持^ノ問訊^ノ向

レ北^ニ也、七月十三日、楞嚴會滿散^ノ時^ハ者、楞嚴咒畢讀^レ疏

也、

一 夏中者、大衆行道戒臘次第也、但^シ東堂西堂者、只位

次第也、

一 楞嚴會、住持懈怠時^ハ、都寺可^ニ燒香^ス也、

衆寮莊嚴

龕前^ニ掛^ク帳、附平江帶^ニ筋^一、其前^ニ置^ニ杓子^一、敷^ニ金襴^ノ打敷^一、

鍮赤^ノ三具足立^ニ銀燭^一、寮^ノ主者入口之上間^ニ圍^ニ屏風^一立^テ

舉^レス經、堂司者立^ニ入口之下間^一打^レ磬、

(三四ウ)

住持燒香敷_二拜席_一、大展三拜、拜畢立_二東序ノ首_一、於_レ是寮元出_テ、燒香大展三拜、不_レ敷_二拜席_一、諷經畢、住持於_二廊下_一與_二寮元_一問訊_テ去_ル也、

(三五才)

一 衆寮諷經ノ役者_ハ、三人、寮衆副寮望寮是也、諷經_ヲ寮主始_レ之、回向_ニ入_ル、寮元ノ名_一也、

十三日晚間

衆寮諷經行禮

至_レテ期_ニ寮主立_二衆寮ノ入口ノ南ノ方_一接_ス衆、先五位ノ侍者_ハ立_二横廊下ノ南_一以_レ西爲_レ首、寮元并維那_ハ北ノ方_ニ相並立、以_レ西爲_レ首、侍者自_二下ノ位_一與_二寮主_一問訊ノ入_ル寮_ニ、次維那與_二寮主_一問訊ノ入_ル、次寮元與_二寮主_一問訊入、各立_二曲衆ノ前_一、寮元者主位維那_ハ者實位、衆入_リ畢_テ寮主副寮相並致_ス行_レ禮_一、寮主者到_二寮元前_一問訊、次侍香次侍客問訊_シ畢_テ、自_二床ノ首_一次第_二巡堂_一二匝_ス、副寮者到_二維那ノ前_一問訊、次侍狀、次侍衣、一一問訊、自_二床首_一次第_二巡堂_一二匝_ス、上間者寮主巡堂、下間者副寺巡堂、兩方遲速相度_ハ、不_レ遲不_レ速、兩方巡堂畢、中央相並立問訊_ス、是_レ揖坐ノ巡堂也、於_レ是衆問訊坐_ス、次寮主副寮、進_ニ聖僧ノ前_一相並燒香畢、兩人相分_テ、寮主者上間_ニ三處燒_レ香、副寮者下間_ニ三處燒_レ香、先燒_テ東

(三五ウ)

面之香ヲ、次西面、次中間、三所焼香シ畢、兩人又相並、寮主ハ、次西面、次中間、次侍香、次侍客、副寮ハ、到ニ維那前ニ問訊、次侍狀、次侍衣、各各問訊上下間相分巡堂、如ニ

初ノ巡堂ニ、一匝畢テ、中央ニ相並立テ問訊ス、是揖香ノ巡堂也、此

時鳴レ「版一下ス、於レ是行ニ銀盞一、給仕者小僧也、行レ盞ヲ畢テ、又

鳴レ「版一下ス、於レ是行ニ湯瓶一、衆喫レ湯畢、寮主副寮相並、寮

主者到ニ寮元ノ前ニ特爲ニ問訊、副寮ハ、到ニ維那ノ前ニ特爲ニ問訊、

退テ相並テ致ス大展三拜ヲ、拜畢収ニ坐具一、寮主者到テ侍香ノ前ニ

問訊、次侍客、副寮者到ニ侍狀ノ前ニ問訊、次侍衣、各各問

訊畢、巡堂一匝シ畢、中央ニ相並立問訊ス、是揖湯ノ巡堂也、

於レ是又鳴レ「版一下、給仕出テ、取ニ銀盞一、寮主ハ、出ニ寮外ニ立テ入

口之南方ニ送レ衆、取ニ銀盞一畢テ、衆下レ坐ヲ、先寮元出テ、與ニ寮主ニ

問訊去ル、次維那、次侍者等、各與ニ寮主ニ問訊ノ出去ル、於レ是

望寮鳴レ「諷經ノ版一、住持聞レテ版來ル也、寮主送レ衆畢テ、入ニ寮ノ之

中ニ、進ニ觀音之前ニ焼香、退テ立ニ中央ニ問訊、入ニ屏風ノ裏ニ待レ磬ヲ

舉スル經ヲ也、

一 特爲湯ト云ハ、者、謂フツ爲メニ某人一人ノ點スル湯ヲ也、

一 前日寮主到ニ寮元ノ所ニ、報ニ借寮一也、到ニ當日ニ寮主令ニ行力ヲ

持レ湯ヲ、到ニ寮元ノ所一也、寮元ハ、者持レ湯到ニ方丈一也、自レ其以下

(三六才)

(三六ウ)

寮主持レ湯到ニ各所一也、然ソ寮主入寮ソ有ニ小坐湯之礼一、寮

主以下、各先踞ス入口ノ北ノ床ニ、以レ南爲レ頭ト、客頭報ニスル案内一時、

往テ北ノ方ノ中央ノ床ニ、寮主ト與ハ望寮一、西ノ方ノ床ニ向テ東ニ立、副寮ハ東ノ

方ノ床ニ向テ西ニ立ツ、互ニ問訊ノ踞也、於レ是行レ湯、喫スル之之間ニ、寮元

來テ燒香ノ問訊スル時、各舉ニ銀盞ニ答フル其礼ニ也、然ソ寮主出テ寮外ニ

立テ入口之南ニ接ス寮元等一也、云云 拈香巡堂畢、衆喫スル湯ヲ時ハ、

者、寮主ハ問訊ノ入リ屏風ノ裡ニ、副寮ハ立ツ入口之南ノ方ニ也、喫レ湯ヲ

畢時出名也、云云

送湯事、寮元者自持レ之ヲ爲メニ上方ノ獻レ一包、爲ニハ參暇及頭

首ノ寮主自持レ之各各送レ一包ヲ、送レ湯ヲ之時有ニ觸礼一、

一 小座湯ト云ハ者、衆寮諷經ノ時、先ツ役者バカリニ、別ニ頌ノ時題評

スル床ニテ、進レ湯ヲ云ソ、維那ハ衆寮ノ寮頭也、故ニ寮元ハ主位ニ

居シ、維那ハ賓位ニ居スルソ、寮元寮頭相分テ坐スル「賓位」ニ、

一 寮主進退ノ者、蓋シ前賓ノ所任ニスル也、以テ耆舊ノ次第ヲ任ニスル「之ニ各々、十

日也、進退トハ者、毎二十日之過一、以テ衆寮ノ什物ヲ、渡ニ次ノ之位ニ、謂ニ

相進退一也、寮主トハ者主ニ衆寮一之謂也、衆寮什物トハ者、戒臘

牌等之事也、

闔山清衆牌

闔山清衆六百餘員、沙彌喝食二百餘員、永正乙亥

(三七才)

(三七ウ)

今日日 堂司某誌

戒臘牌圖 結夏十三日、掛之衆寮

凡僧堂法堂衆寮三所掛_レ之、僧堂_{ニハ}者、維那、法堂者侍

香、衆寮者寮元之役也、結夏_ニ掛_レ之也、十三日者衆寮

掛_レ之、十四日者僧堂_ト與_ニ法堂_ニ掛_レ之、戒臘牌_ノ焼香_ヲ次第、

一番_ニ頭首、二番_ニ參暇西堂、三番_ニ住持、先_ツ法堂_ノ焼香_ヲシテ、

次_ニ僧堂也、住持僧堂_ノ焼香畢_テ、然後往_ニ佛殿_ニ焼香_ヲ、次第

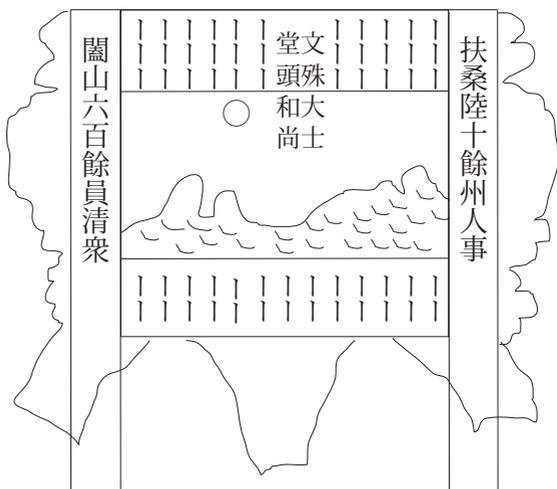
次第_ニ七堂焼香、如_レ常_ノ也、

十三日_{ニハ}、別シテ戒臘牌_ノ焼香ト云テハ無_ソ、衆寮_ノ調經ハ

結夏ト解夏ノ兩節_ニ有_ルモノ_ソ、

(三八才)

(三八ウ)



- 一 楞嚴會ノ圖者、先ッ四月十二日ニ盛レ之ヲ、至ニ半夏ニ再ヒ盛レ之也、
- 一 夏中者、早晨略ニ楞嚴咒一也、凡早晨者必有祖堂祠堂
- 一 等之小諷經一、小諷經畢楞嚴會也、旦望ニハ者上堂畢テ而
- 一 楞嚴會也、
- 一 楞嚴會、旦望ニハ者別ニ有ニ回向一、平日ハ者常ノ之楞嚴會ノ回向

(三九才)

也、故_ニ旦望_ニハ者不_レ掛_ニ楞嚴會ノ回向ノ牌_ヲ、平日_ハ者掛_ニ之_ヲ於上

下間_ニ者_ノ二枚也、

一 舊者、毎日夏中長老七堂燒香、侍狀侍客侍藥侍香

等之侍者、毎日輪次代_ニ長老_ニ燒香也、_レ今者、旦望_ノミ只長

老自燒香、不_レ然則只侍香代_テ長老_ニ燒香耳、

一 十四日早晨 小諷經 石塔諷經

法堂_ト僧堂_ト、戒臘牌燒香但土地堂 念誦以前 楞嚴會 榜札

同晚間 土地堂念誦雨時者、殿裏 無借香_ノ礼_一

借香謝香之礼子若雨時、於殿裏有_ニ 諷經_一、則無借香_ノ礼_一

先_ツ住持受_テ維那_ノ請_ヲ、進_ニ燒香、其後東西序受_テ維那_ノ請_一、相

共_ニ至_ニ住持_ノ前_ニ問訊_ヲ、收_テ其_ノ問訊_ヲ至_ニ爐邊_ニ、以_ニ住持_ノ香合_ノ之

香_ヲ燒香、相並_テ問訊、不_レ收_ニ其_ノ問訊_ヲ、直_ニ往_ニ住持_ノ前_ニ問訊、然_レ

後_ニ歸_レ位、聞_ニ行者_ノ叫_ヲ列拜_ト、不_レ離_レ位_ヲ、而展_ニ坐具_ヲ向_ニ眞前_ニ而

礼拜、_レ若於_ニ鎮守_ノ前_ニ則無_ニ列拜_一也、

小參_ノ時_ニ用_レ之

目子_ノ書_キ様_ハ、引合_ヲ横_ニ折_テ、二枚_ヲ接_レ之、折本_ニ渡_ス侍香_ニ者

也、

瑞雪座_ニ元

花溪座_ニ元

(三九ウ)

(四〇オ)

諸位座元

淳首座

丹首座

諸位首座

仙藏主

心藏司

諸位藏主

如右ノ書ク者ノ也

大坐湯ノ礼子ハ、見ヘタリ後ノ乗拂ノ處ニ、常樂諷經

大坐湯畢テ、諸兩班各相ニ聚テ于首座寮ノ横ノ廊下ニ、東序ハ

南、西序ハ北、以レ東爲レ首、相向テ問訊ノ到ニ常樂ニ也、諷經畢テ

乃歸寮、於レ寮ニ待ツ小參一也、不レ到ニ僧堂ニ、

小參 鼓者一通也、聞レテ乃出、不レ到ニ正面ニ自ニ西ノ口ニ入

也、與ニ上堂ニ異也、於ニ後門ニ有ニ謝語ノ礼一也、

次ニ湯礼茶堂ノ礼子ハ、見
于冬節ノ處ニ

法堂ノ習 上下ノ寮相雜テ倡レ之ヲ、此時ハ者各自ニ出テ禪客ヲ不ニ

互換セ也、燭者自ニ寮寮ニ支配ソ出レ之ヲ、聖僧侍者ハ乃當日之

侍者也、

歸寮 頭首入ニ居湯ニ、緩ニ全身ヲ、欲ニ其健一ニ、此夕敷レ席ヲ安眠、

(四〇ウ)

(四一才)

十五日粥僧堂詳于冬節之處 祝聖 土地堂諷經 祖

師堂諷經 法堂祠堂 茶礼 常樂諷經同 祠堂

榜礼 草飯 上堂 節礼法堂 庫司礼

巡堂僧堂 楞嚴會 日中 茶礼僧堂 借法座

佛殿後門、有三板、則後板以下不預之 杖拂同 湯礼 丈室礼

侍香寮礼 塔頭習 藥煎物 秉拂 茶堂湯礼

一 揖坐揖香之事、點レ燭後テ、先ッ於テ中央香臺之前ニ問訊ノ、
(四一ウ)

自ニ香臺ノ右邊ニ進マ、到ニ本尊ノ前ニ燒香、然ッ袖中ニ収ニ香合、自ニ香

臺ノ左邊ニ退マ、於ニ中央ニ燒香、退ク三歩許ハカリ、問訊ノ去ル也、

十六日 謝上堂於後門有謝語礼、小門而揖去 同晚間者開

山宿忌

十七日 上代者、夏中毎月十七日開山法堂ノ半齋

者齋了也、今者依ニ大衆一、楞嚴會過而即半齋也、

六月

一日 打扇ハ者自ニ半夏ニ行レ之ヲ、正面ニ五人、東西各一人、

都合七人也、故ニ夏中ハ者佛殿沙喝一間ニ四人立レ之ヲ、平

生ハ者一間ニ五人也、自ニ今晚ニ定ム來日ノ打扇ヲ、舊者放參ニモ亦

有ニ打扇一、 淋汗風呂

一 六月十八日、妙雲閣懺法シヤ、差定者、只如ニ毎月方丈一、

(四二オ)

懺法ノ也、前一日堂司持ニ差定ニ報レ之、鉦鼓等之役者於ニ當場ニ定ム之、差定十人之外ハ者、大衆雖不レ及レ報レ之皆赴焉耳、舊ハ者自ニ都寺寮ニ點レ茶ヲ、今ハ者依レ無ニ都寺一、自ニ維那寮ニ辨レ之、茶ノ之給仕者皆行者衆也、雖無下レ命各來給仕也、山門莊嚴者、山門ノ承事可レ調フ之也、總ソ毎月十八日懺法ノ差定、先ッ早晨ニ火徳ノ諷經ノ時、火徳之前ノ柱ニ、掛ル差定ノ牌ニ也、妙雲閣懺法ノ時ハ者、函丈之字ノ上ニ貼レ紙ニ、書スル妙雲閣ト也、

(四二ウ)

七月

七夕、方丈冷麵ノ儀式

前四日請客頭廻レス報ヲ、侍衣者爲ニ諸老ノ自往テ報ス之、豎紙ノ報也、座元者書ニ道號ヲ、自餘者雙字名書レ之、侍衣ノ拜請也、坐牌四首出頭、耆舊次第懸盛也、大衆者臂ニ搭ニ袈裟ヲ、入ニル座敷ニ時、侍香搭ニ袈裟ヲ、立テ唐戸左邊ニ接ス之ヲ、坐定而侍香如レ恒ノ燒香、點燭亦如レ恒也、燒香畢、侍香出テ、縁外ニ脱ニ袈裟ヲ掛レ臂ニ問ニ訊ノ于住持ニ就ク座ニ也、初臨レ期ニ時行者擊ニ東廊之鼓ヲ四下矣、給仕ハ者沙喝也、大衆散時、住持立ニ中門之左邊ニ門送、侍者隨ヲ其後ニ如レ恒ノ也、

(四三オ)

來星節就

函丈煎茶

侍衣某拜請

(道号) 一一座元 謹奉 一一座元

(双字名) 一一首座 謹奉

一一藏司

給仕

一一沙彌 一一沙彌

一一喝食

七月看經ノ勝

自ニ七月一日、出シ之ヲ僧堂ニ、横ニ開テ置ニ外僧堂ノ南ノ床ノ上ニ、

解夏 七月十三日、齋退楞嚴會ノ滿散、臨レテ期ニ鳴ニ大鐘

并堂前ノ鐘及殿鐘ヲ、維那持ニ大香合一ヲ、燒香如レシ常ノ、燒香畢テ、

立ニ華瓶ノ下ニ、出班燒香、無ニ列拜ニ故、諸東堂并參暇西堂、

亦不レ立ニ尋常列拜ノ圖ニ、只頭首ノ末ニ相並テ立ツ、行者モ亦不レ報セ

列拜ノ圖ニ御立ト、衆集ル時行者鳴レ鉦ヲ、維那自ニ華瓶ノ下ニ往テ爐

邊ニ、一步進テ先ツ請ニ住持ヲ、住持燒香侍香持ニ香合一ヲ、從レ之ニ、次ニ

請ニ諸東堂一ヲ、次ニ請ニ參暇ノ西堂ヲ、次ニ東序、次ニ西序、兩序ノ燒香

(四三ウ)

終ル時、維那相加テ燒香、相並テ問訊ノ歸ス舊ノ位ニ、鳴レ聲ヲ啓請、擧ニ

(四四才)

楞嚴咒ヲ、後啓請畢テ讀ム疏ヲ、讀ミ疏ヲ畢テ回向、上來文疏云云其

後鳴レ聲ヲ擧メ消災咒ヲ、祭ル經馬及ヒ疏ヲ於佛殿ノ前ニ、都寺捨ル「茶

湯」如レ常ノ行事畢テ衆散ル時、維那詣テ方丈ニ致シ滿散ノ礼ヲ也、

晚間衆寮諷經

礼子別ニ記シ之
見結夏ノ處

七月十四日 自ニ早晨ニ下間ニ掛ニ點湯ノ牌ヲ、晚間掛ニ念

誦并小參ノ牌ヲ、念誦ノ牌ノ肩ニ貼ニ土地ノ昭牌ヲ、「今日ノ湯ハ者都寺ノ

所ノ點也、都寺往テ方丈ト與ニ首座寮一有ニ榜ノ礼一、榜ノ礼ハ別ニ記ス之ヲ

云云

晚間土地堂念誦、次ニ大坐湯、次ニ常樂諷經、次施餓鬼、

次小參、小參畢テ、於ニ後門ニ諸兩班西堂有ニ謝語ノ礼一、自レ其

直ニ到テ茶堂ニ茶礼、礼子如レ常ノ也、

(四四ウ)

十四日ノ施餓鬼ノ疏ニハ者、入ニ住持及都寺ノ名ヲ、十五日施餓

鬼ノ疏ニハ者、但入ニ都寺ノ名ヲ、不入ニ住持ノ名ヲ也、

施餓鬼ノ疏ニハ、印ヲツカヌゾ、

同十五日 早晨於テ僧堂ニ粥、次ニ透ニ置路ヲ自ニ正面ニ入テ佛

殿ニ祝聖、無シ粥ノ諷經一、次土地堂諷經、大悲咒次ニ祖堂諷

經大悲次ニ往テ法堂ニ祠堂諷經大悲次到テ茶堂ニ茶礼、礼

子如レ常ノ、次ニ常樂諷經、諷經畢テ、於ニ光明峯殿前ニ諷經、大悲

咒
自レ其侍客往テ首座寮ニ有レ榜ノ礼一、今日ノ茶者住持ノ所レ點スル
也、故侍客代ニ住持ニ持レ榜ヲ到ル首座寮ニ也、今日ノ茶以テ首座
爲ニスル特爲一ト也、

(四五才)

齋了上堂、上堂畢テ、節ノ礼、節ノ礼ハ別ニ記之次ニ庫司ノ礼、次ニ巡堂、次ニ
日中、日中畢テ、往テ僧堂ニ茶礼、茶礼ノ礼子ハ別ニ記之然ツ晩間大施餓
鬼也、此ノ日僧堂ノ上間ニ掛ニ巡堂ノ牌一、下間ニ掛ニ點茶ノ牌一、

東福寺施餓鬼牌 大幡、兩疏合テ厚紙五百枚也、
頭不レ書ニ佛法僧三字、摩達撥ニ
レ口、不加

關山梵侶七世父母 本寺前亡後化僧行童僕
會上三寶聖衆一一等品之位、四趣群類各各同分之位
十方檀信各旅怨親 逐年戰場横死无主孤魂

三聖寺施餓鬼牌 大幡、頭ニ無ニ佛法僧ノ三字、
性悔和尚語也、筆亦性悔和
也尚

(四五ウ)

三世十方塵類、諸佛菩薩、一切聖賢
此土他方、有主無主魂魄
依草附木、順縁逆縁衆生

南禪之衆、於_二四條坊橋上_一、設_二水陸會_一、其牌_三云、
他界此界一切亡靈

相國水陸之牌_二云、四條橋上

三界萬靈十方至聖

建仁牌_二云、於五條橋、設_二水陸會_一、

盡法界沒亡靈

東福牌_二云、四條橋上、

前亡後沒、各各幽靈

萬壽牌_二云、第五橋

河沙餓鬼、各各幽靈

大永七年丁亥、二月十三日、於_二川勝寺_一合戰、戰

死_レ可_レ數、同三月七日、東福寺一山之衆、於_二彼

戰場_一追弔、施食牌_二云、時住持、芳卿和尚也、特請_二永明、蒲心、座元_一、爲_二維那_一。

戰場依草附木精靈、法界有主無主魂魄

右、芳卿和尚之文也、

九月

十七日 普門寺開山忌、報、杉原一枚、横、折書、十五日廻

イツモノ十七日ノ開山ノ渡リ、諷經過テ、別ニ又鐘ヲ撞キ出テ、待ツ諸老_一

也、諸老集_{マル}時、塔主ハ客殿ノ正面ノ南ノ方ニ北ヘ向テ立テ、從_リ時ノ上方_一

(四六才)

(四六ウ)

位次第二接入スル也、接入過キテ、先ツ取テ坐牌一各立班也、立班ハ獨

位之故ニ、上方ニカマワズ、位次第二立班スル也、焼香ハ塔主ノスル

也、九拜アリ、一番焼香三拜ノ、不レ摺マ坐具一、二番焼香ノ献レ湯ヲ

次ニ献レ飯ヲサテ歸レ位ニ三拜ノ、不レ摺マ坐具一、三番焼香ノ献レ茶ヲ次ニ献レ

下ノ嚙ヲ歸レ位ニ三拜ノ、摺シテ坐具一、我カ位ニ立班スル時ニ、鳴ス「磬ヲ三下ノ、維那

始ニ半齋一、維那坐具ヲ挟ミ手ニ、請ニスル上方ノ行道ヲ也、上方出テ、次ニ問

訊ノ引ニ行導一也、

上方ト、塔主ト、維那ト、頭首ト、道具、其外ハ布衣七條也、半齋過キテ、

除テ塔主一、其外ノ諸老、位次第二有ニ焼香三拜一、

塔主ハ縁ノ南ノ方ニ、向レ北ニ接入スル也、各就レテ座ニ、有ニ塔主ノ揖坐揖

香一、塔主ノ坐牌ハ、モリヲトシ也、四首頭敷一坐氈一、

十月トハ祈禱常樂ニテアリ、觀音經ノ時、焼香三拜也、

其マ、立テ、滿散ノ焼香スル也、滿散ハ坐ノ其マ、後ニ

散リ鈴ノ時焼香、如レ常ノ、

十月

一 達磨ノ疏銘ヲ、自リ維那一取也、四五日以前、取レ疏銘也

又住持ノ自リ達磨ニ幾世ト云フヲ、自リ維那一問テ、書キ入ル物也、某ハ

自リ達磨ニ二十九世也、

一 十月ニナラハ、一日二日間、自リ達磨忌一開山忌并冬節マデ

(四七才)

(四七ウ)

ノ兩班ヲ、以テ客頭一差也、有ニラハ乗拂スル前板一、差ニ却來ノ後堂ニ也、又
乗拂スル後板アラハ、可レ差ニ却來ノ前堂一、却來ハ祖忌迄也、無クハ本頭首、節迄也又
侍香、侍狀、侍客、侍衣、侍藥ノ五位ノ侍者ヲ、可レ差ス也、達磨忌
ヨリ、冬節迄下、理ハリヨニテ履也、十月十五日ノ望ニモ、某役者ハ立
也、

(四八才)

一 十月四日 達磨忌ノ宿忌 住持ハ、道具平衣ニシテ、入ニ佛殿ニ、後

門ニテ普菴ニ燒香、次ニ土地、次ニ三尊、先ツ東ヲメ、次ニ本尊ヲメ、次ニ西ヲ
シテ、トヨリ、往ニ達磨ノ前ヘ、達磨ヲ昇キ出シテ置也、中央ニテ脱帽ヲ、小間
訊ノ燒香ヲ、承テ茶ヲ供シ、又供レ湯ヲ、又燒香ヲ歸レハ位ニ、維那唱ニ大悲咒ニ、
即チ不レ燒レ香ヲ、三拜シ了テ、著レテ帽ヲ東ノ方ヘ立チ倚リテ、達磨ヲ透ス也、一ニ挑燈、
人ニ二鉢、人ニ三鼓、人ニ四達磨、次ニ兩班、次ニ住持、次ニ諸老大
衆、各々問訊ノ供スル也、如ニ達磨ノ、住持ハ自ニ法堂ノ面テ入也、餘ノ諸
老ハ、自ニ法堂ノ西ノ口ニ入レ内ニ也、住持ハ自ニ正面ニ入テ與ニ點供ニ一問
ホド問ヲ置テ立也、維那爲メニ點供ノ、手ニ挾ミ坐具ヲ來テ請ス住持ヲ、
次ニ兩頭首、次兩參暇、次都寺ヲ請スル也、行者二人撞ニ出ス鉢一
時、各々分テ立レ位ニ也、立様ハ見ニヘタリ于次ニ

(四八ウ)

上^ト、スユ 六ニ揖^ツ而三拜^ス坐具^ヲ擗^シ時^ニ老弱立班^{スル}也、其時^ニ住
 持普通問訊^シ、拈^レ香^ヲ唱^テ法語^ヲ、法語了^テ、進^テ爐前^ニ立^テ瓣香^ヲ、別^ニ
 不^レ燒^レ香^ヲ退^ク、」時^ニ堂司報^{スル}列拜^ノ圖^ト時、住持東ノ柱ノキワへ倚^リ、
 解^テ法衣^ヲ、渡^ニ侍衣^ニ、掛^ケ換^ヘ平衣^ヲ、出^ル中央^ヘ時^ニ、維那立^テ東ノ高燭
 臺^ノ東^ノ方^ニ、三步出^テ、請^ニ住持^ヲ、住持進^{シテ}燒^キ香^了歸^ル中央^ニ、次^ニ前
 住衆、次^ニ兩參暇、次^ニ前板^ト都寺^ト請^{スル}也、次^ニ請^フ後板^ヲ、與^ニ維那^一
 燒香也、イツレモ先^ツ自^リ東序^一燒^レ香^ヲ也、次^ニ西序^ハ左ノ手^ニ燒^ク者^ノ也、
 燒香了^テ、堂^方擊^ツ鈴^ヲ三^ツ時^ニ、坐具^ヲ各^ク挾^{シテ}手^ニ一^ニ礼^ス三^拜也、住持^ハ
 西ノ方ノ頭首^ト、東ノ方ノ都寺^ト、一^ニ礼^ヲ展^テ坐具^ヲ三^拜スル也、三^拜了^テ、住
 持著^ル帽^子也、」兩班立班^ク、維那淨法界^身ノ嘆佛^ノ偈^ヲ唱^テ、高^ク
 唱^テ仰冀慈悲俯垂昭鑑^ヲ、讀^ム疏^ヲ也、讀^ム疏^ヲ時^ニ、住持脱^レ帽^展
 坐具^ヲ、右ノ膝^ヲ著^ク地^ニ、堅^テ、左ノ膝^ヲ居^ル時^ニ、侍衣自^リ左ノ方^一出^テ炳^ク香^爐
 時^ニ自^リ右ノ方^一侍香^カ大香^合指出^{タス}、炷^レ香^ヲ、ヤガテ右伏^以ト云^時ニ、
 侍衣取^テ香^爐、時^ニ摺^{シテ}坐具^一掛^ケ立班^{スル}也、讀^ム疏^ヲ終^ハセハ、ソノマ、擊^レ
 レ磬^ヲ維那始^ニ半齋^一也、散鈴^時ニ、有^ニ燒香三^拜一^ノ、昇^ニ下^{シテ}達磨^一歸^ル
 時^ニ、如^ニ前^夕兩班^先キヤリ、次^ニ著^ク帽^ヲ住持^ハ小問訊^ノ往^ク也、次
 諸老大衆問訊^シ、供^フスル也、佛殿ノ祖堂^ニテ、達磨安坐、
 住持燒香^シ、承^レ茶^ヲ供^シ、次^ニ承^レ湯^ヲ供^シ、歸^テ位^ニソノマ、取^テ出^テ坐具^一
 大悲咒^ノ間^ニ三^拜了^テ歸^ル也、餘^ノ諸老^ハ、燒香三^拜スル也、

(五〇オ)

一 達磨忌ノ疏ニ、印ヲツカズ、
(五〇ウ)

一 十月四五日之比ヨリ、火番ニ云イ付ケテ、掃地ヲ、サスベシ、
一 十月七八日之比ニ、方丈ノ書院之前ノ牆ヲ、住持ノ内衆ニ、云イ付、

サスベシ、

一 開山忌ノ報ト、并ニ座牌ノ紙ヲハ、十月五日六日ノ比ロニ、堂司ガ處ヘ、コイニ、ヤ

レバ、堂方參暇ヘ云テ、引合ヲ十三枚持チ來ル也、十日ノ内ニ、急ヒテ

調也、

東福開山忌

請定狀カハ、堅テ紙也、客頭持シ之、此ハ十月十四日ノ早朝ニ可シノ廻

若シ無ケレバ、侍客一、書ク侍香ノ名ヲ也、

來十七日就

函丈小齋

侍司可レ書侍客名一拜請

首座 謹奉

都寺

侍者

侍者

一 座元

一 書記

一 侍者

給仕

一 沙彌

首座

維那

侍者

一 首座

一 藏主

侍者

給仕

一 喝食

(五一ウ)

(五一オ)

十月開山忌 十三日、報_レ、諸老、塔主道具
卸衣、口報也。

十月十五日、就_二于常樂菴_一小齋、

半齋於昭堂有_レ之、各脱帽 半齋以後、諸老各有燒
香三拜。

來十五日就 三日以前、前資報_レ之

常樂菴小齋

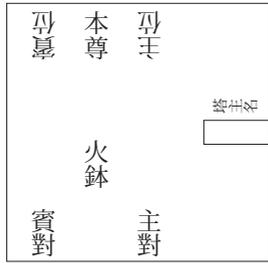
(可書「塔主」名)
某拜請 給仕

涅槃座三元 伯沙彌

松首座 英喝食

賀藏司

十五日、常樂_ノ坐牌_ノモリ様、
如_レ常也、



十五日、預常樂營齋、半齋_ノ回向_二入塔主_一名_一也、
塔主_ノ坐牌_ノ者、双

字名、上間_ノ大衆、
未盛_レ之、如_レ常也

半齋_ノ時_ハ、住持_モ常_ノ位_并次第_ニ立也、燒香_ハ塔主也、維那_ハ獨位_ニ

(五二ウ)

(五二オ)

始々、維那請_レ當住_ラ行道、

一 十六日、齋了_ニ、サシ急_キテ、自_レ住持_一、客僧一人ト、下衆_ノハタ

ラク者_ノ四人、以上五人出_レ之、方丈ニテ、明日ノ經營_ノハタ

ラキ衆也、侍衣_モ齋了_{ヨリ}、往_ニ方丈_ニ、借_レ狀_トモヲ書也、

經營_非時_ハ、方丈_ヘ往_リバ上_ト方_ト侍衣_トノヲ塔頭_ヘ持_{スル}也、

一 十六日ノ晚_ニ、宿忌歸_テ、夜_ル侍衣_ニ云_イ付_ケテ、坐牌_ヲ盛_テ置_也、

一 方丈_ノ客殿_ノ華_ハ、前_ニハ無_事也、近_年ノ事_也、今_モ住持_ハ不_レ知_也、

客頭各_ク談合_ニテ立_也、前_ニハ立_ル松_ノ枝_一也、豎炭_并諸_式

不_レ知_也、

一 十六日ノ夜_ル、方丈_ノ客殿_ノ夜番_ハ、宵火番_也、後_ニハ門前_ノ大工衆、

二人來_テ、番_ヲスル_也、

一 十七日ノ茶_ノ湯_モ、住持_ハ不_レ知_也、自_レ經營_ノ方_一スル_也、挽茶_モ住持_ハ

不_レ知_也、

一 座敷_ノ事_ハ、内座_ハ無_價軒_ノ西_ノ書院_バカ_リ入_ル也、眠藏_ノ入口_ト、西_ノ

方_ノ内書院_ト、此_ノニケ所_ハ不_レ入_ラ也、兩所_ニ住持_ハ意安_ク居_テ、拈

香_ノ工夫_ヲ、スル_也

開山忌行事次第

十六日宿忌

一番_ニ常樂 二番_ニ佛殿 三番_ニ法堂_{九拜} 次_ニ諷

(五三才)

(五三ウ)

經

十七日 當日行事ノ次第 早晨ニ佛殿粥ノ諷經

二番ニ法堂獻粥 三番ニ常樂 四番ニ方丈ノ齋

五番ニ齋退、法堂半齋、附十八拜 拈香、出班燒香、

十八拜、獻茶湯ヲ、住持揖ノ三拜ノ時、鳴レ鼓四下、於是ニ

諸東堂、自リ西ノ床ニ出テ、立班ノ時、拈香

宿忌常樂諷經

(五四才)

臨レ期ニ、鳴ス堂前ト與レ常樂之鐘ヲ、住持到ニ常樂ニ、先ッ入テ客殿ニ、二

十八祖燒香、於ニ中央ニ大展三拜、侍香持ソ香合ヲ、從レ之ニ、次ニ

入ニ昭堂ニ燒香、如レ常、當日ノ諷經、亦礼子如レ此、

宿忌

諸頭首、并ニ東序、諸東堂、西堂ハ常樂ノ宿忌了テ、自リ通天ノ南ノ

橋ニ、西ヘ往テ、サテ向レテ南ニ往ニ佛殿ヘ、自ニ佛殿ノ西ノ口ニ入テ、西班ノ立ツ次ニ

立班スル也、是ハ東堂西堂ノ立班スル事也、

常樂ノ諷經畢、則鳴ニ堂前ノ鐘ヲ、住持及沙喝ハ者、自リ佛殿之

後門ニ入、透ル本尊ノ前ヲ、住持諸堂一一燒香、如レ常ノ、到ニル祖師

堂ニ、諸頭首、并ニ東序、及諸東堂西堂ハ者、自ニ西之口ニ入ニ佛

殿ニ、大衆ハ者自リ後門ニ入ニ佛殿ニ、透テ土地堂ノ前ヲ、到ニ正面ニ、自リ西

到レテ東ニ治レ壁ニ一列ニ立ツ也、住持燒香畢マ、堂司鳴ニ手磬ヲ時、維

(五四ウ)

那擧ス大悲咒ヲ、大衆同音ニ誦ス之ヲ、回向者通回向也、十方
 三世之聲未レ畢マ、同時ニ鳴ニ鈸ト與レテ鼓ヲ、行者四人安ソ御影ヲ於
 兩夾ニ、昇レテ之、自リ西之口一、透テ西廊ヲ赴テ法堂ニ也、行者二人、擔テ
 挑燈ヲ前驅、其次ニ僧四人、鈸ニ雙、鼓ニ雙、鳴レ之前驅、其
 次ニ御影、其次ニ都寺維那等、其次ニ五頭首、其次ニ住持、其
 次ニ諸位侍者、其次ニ沙喝、其次ニ諸東堂西堂、其次ニ大衆
 皆合掌ノ從レフ之ニ也、必可レ脱ニ帽子ニ也、御影并住持ハ者、透テ法
 堂ノ橫廊下一ヲ、到ニ正面ニ、自リ中央ノ口一入ル也、東序ハ者自リ東ノ口一入リ、
 西序ハ者自リ西ノ口一入ル、諸位侍者沙喝モ、亦自リ正面ノ東ノ口一入
 也、挑燈及ヒ鈸鼓役者ハ、自リ中央ノ口一入也、御影ハ昇テ到ニ法堂ヲ
 東ノ階下ニ也、行者一人手ニテカイト御影ヲ登ルニ法堂ニ、安ニスル椅子ノ上ニ也、
 安シ御影ニ畢ル時、收ニ鈸鼓ニ也、東堂西堂ハ者、自リ西ノ口一入テ、先踞ニスル
 長連床ニ也、大衆者、暫ク立ツ西之橫廊下ニ、待ツ擧經ヲ也、兩序ノ
 立班如レ常ノ、兩序已ニ定ル時、維那進テ請ニス點供ノ役者ヲ、諸位侍
 者、分ニテ上下間ニ、薦ニ點供于法座ノ上ニ、點供畢テ、住持九拜、上
 茶ノ時、鳴ス下間ノ鼓ヲ、侍者又自リ上下間ニ薦ニ茶湯ヲ於法座ノ上ニ、
 住持揖ノ三拜ノ時、行者攬ニ鼓ヲ端ニ鳴レテ鼓ヲ四下、於レ是ニ大衆入ル
 レ内ニ、維那擧經也、回向ノ嘆佛ノ偈ハ者、寶明空海云云、伏願ノ句ハ
 者、不捨悲心云云、常樂諷經モ亦同也、初メ祖師堂ノ立班ノ時、

（五五オ）

（五五ウ）

沙喝ハ者傍テ佛壇ニ向レテ南ニ以テ西ヲ爲レ首ト、一列ニ立也、祖堂ニハ卓ニ掛ニケテ打敷ラ、眞前ニ備ル茶湯ラ一也、

十七日當日

早晨ニ粥ノ諷經畢テ、大衆盡ク自ニ佛殿ニ赴テ法堂ニ、獻粥諷經、擧ニス楞嚴咒ラ、回向ハ通回向也、「自レ其赴テ常樂ニ諷經、住持ノ礼子ハ如シ宿忘ノ、」常樂ノ諷經畢テ、方丈ノ齋、

方丈齋ノ礼子

坐牌ハ者、列盛也、圖ハ見テ下ニ也

侍香脱ソ帽子ヲ、立テ唐戸ノ左ニ_{方東}代ニ住持ニ接ス大衆ヲ、大衆自ニ下位ニ與ニ侍香ニ問訊就レ座ニ、大衆諸東堂西堂、就レ座ニ畢マ、住持乃入ニ座敷ノ内ニ、先ッ向テ主對ニ問訊、次ニ向ニ賓對ニ問訊、向ニ賓位ニ不ニ問訊セ、賓位ハ首座ナルカ故之也、住持乃問訊ソ坐ニ主位ニ、於レ是座敷奉行出テ、使三衆ヲ取ニ坐牌ヲ、取ニ坐牌一畢テ、乃座敷奉行、巡テ下間ヲ、引テ懈怠坐牌一也、然後命テ侍者ノ耆舊ニ點セシム燭ヲ、於レ是侍香入ニ座敷ノ内ニ、於ニ香臺ノ前ニ問訊、是レ揖座ノ問訊也、然ッ後ニ跪テ取ニ中央ノ大香合ヲ、_{方北}挾ニテ之ヲ左脇下ニ、自ニ香臺右邊ニ_{方西}到ニ眞前ニ燒香畢テ、自ニ香臺ノ左邊ニ_{方東}退テ於ニ中央ニ燒香、跪テ香合ヲ置ケ「地ニ如レクノ舊ノ、起テ退ク」三歩許リヲ問訊ス、是揖香ノ問訊也、住持去テ出テ、戸外ニ、引ニ諸位侍者ヲ、到ニ住持ノ前ニ相並テ問訊ク、就レ座ニ、侍者ノ耆舊進テ吹ニ滅ス眞前ノ燭ヲ、座敷奉行、乃取ニ座頭ノ屏風ヲ、於レ是出レ膳ヲ、

(五六才)

(五六ウ)

小僧沙喝給仕、如レ常、大衆散スル時、住持出テ立テ中門ノ左邊ニ、
方東門送、諸位侍者、從テ其後ニ也、

齋退法堂平齋ノ礼子

方丈ニ番座畢ル時、鳴ス堂前ノ鐘ヲ、住持著テ法衣ヲ、自ニ後門ニ入ル
法堂ニ、諸東堂西堂者、自ニ西ノ口ニ入テ法堂ニ、踞ス長連床ニ、大衆
者暫立ツ横廊下ニ也、兩班及參暇ノ西堂、立班如レ常、住持

先ツ十八拜、諸位侍者、分テ立テ上下間ニ、上食上茶湯、薦ム之ヲ

法座ノ上ニ、上茶ノ時鳴ス下間ノ之鼓ヲ、十八拜畢テ、拈香、於レ是諸

東堂西堂、進テ聽ニ拈香ヲ也、大衆ハ猶ラ居ス堂外ニ、拈香畢ル時、堂

司叫ツ列拜ノ圖ト、住持乃脱テ法衣ニ、著テ平衣ニ立班、諸兩班各

各立班、出班燒香列拜、如レ常、列拜畢ル時、大衆入ル堂ニ、維

那擧ス楞嚴咒ヲ、回向畢ル時、鉞ト與レ鼓同時ニ鳴レ之、行者二人

登テ法座上ニ、昇テ御影ニ下テ、安ソ之ヲ兩夾ニ、昇テ赴テ佛殿ニ、挑燈鉞鼓

等ノ之役者、總テ如シ前日ノ也、住持沙喝、東堂西堂、大衆、共

一齊ニ自ニ西ノ口ニ入ル佛殿ニ立班、如シ前日ノ也、祖堂ニ安シ影畢ル時、

維那鳴ツ手磬ヲ、擧ス大悲ノ聲ヲ、回向者、通回向也、次ニ東堂西堂

衆各々燒香三拜ノ退散也、但當住一人ハ、此時不ニ燒香ニ歸

也、

（白紙）

（五七才）

（五七ウ）

（五八才）

開山忌法堂ノ莊嚴

法座上立^三、金屏^ヲ、椅子^ニ掛^ク法被^ヲ、椅子^ノ前^ニ置^テ机子^ヲ、備^フ鳩備菜^一、法座^ノ左右^ニ華瓶^ニ挿^テ菊花^ヲ、菊花^ハ者沙喝^ノ兩班贈^ル之^ヲ、維那寮^ニ、座下^ニ、高机子^一脚置^レ之^ヲ掛^テ打敷^ヲ、其上置^ク大香爐^一一箇^ヲ耳^ノ、机子^ノ左右^ニ置^テ高燭臺^二箇^ヲ、點^テ燭^二挺^ヲ也、

常樂莊嚴 開山忌

客殿掛^ク二十八祖^ノ像^ヲ、中央^ハ者佛鑑^ノ像也、佛鑑國師并^ニ

乃祖、此^ノ三所^ニ、有^リ茶湯^一、用^ニ土器^ヲ也、諸祖^ノ前^ニ掛^テ打敷^ヲ、各各

置^ク華瓶^一與^ト香爐^一、華瓶香爐者、初午卅三瓶之華瓶用

之^ヲ、佛鑑^ノ之前、及^ヒ國師^ト乃祖^ト前^ニ、置^ニ鍬赤三具足^ヲ點^レ燭^ヲ、國

師^ヲハ必北方^ニ安^レ之[、]乃祖^ヲハ必南方^ニ安^レ之[、]何^ヲ謂^ニ乃祖^ト乎、其^ノ時

之塔主^ノ祖師、謂^之乃祖^ト耳、喩^ハ如下^ニ三聖門下^ノ塔主^ヲ、以^ニ寶

覺^一爲^ニ乃祖^ト之類^ト也、客殿^ノ中央^ニ、敷^テ唐席^ヲ爲^ニ拜席^ト也、左右

置^テ大鉄燭臺^各一箇^ヲ、點燭

昭堂^{開山}忌^忌 凡掛^レ帳七旒^{佛鑑}、眞前、土地堂、祖師堂、檀那、左右、祠堂 各結^テ平

江帶^ヲ掛^レ之[、]用^ニ鍬^ノ三具足^ヲ、凡十二飾^{眞前一、中央土地}、檀那、左右、祠 以上十二飾也、舖^レ氈^凡五枚、眞前三、佛鑑、

檀那^一皆階^ニ舖^レ之^ヲ、佛鑑、檀那、左右^ノ祠堂、各備^ニ供具^ヲ、中央

置^テ大机子^ヲ掛^テ打敷^ヲ、備^フ供具四十二合、及鳩備菜^ヲ、机子^ノ

(五九ウ)

之四方ニ、置テ大飯銅各一箇ヲ立ツ花ヲ、二飾之三具足ノ之外、

(六〇才)

點ス燭十二挺ヲ、土器二箇、陶ニ之ヲ屈輪ノ臺ニ、備フ茶湯ヲ、机子ノ左

右ニ、置テ高燭臺各一箇ヲ、點ス燭ヲ、又土地祖師兩所相分テ、高

燭臺各一箇、置テ之ヲ點ス燭ヲ、釣蠟燭十一挺、釣燈籠ニ點ス燭ヲ、

諸檀那石塔ノ前机子ニ、掛ニ打敷ヲ、置テ燭臺ヲ、點フ燭ヲ、香爐一箇

置ク之ヲ、掛字若干、一ニ不レ暇レ記レ之、一ニ相傳眞前ノ金襴帳、鳩

備菜十二箇、銅ノ燭臺ハ者、文溪和尚ノ寄進也、客殿ノ佛鑑ノ

像ハ者、默溪和尚ノ筆也、一宿忌ニハ、鐘後ニ燭香、廊下ニ點スル燭ヲ、凡ソ自ニ

常樂門ニ至テ通天ニ、每レ柱點レ之ヲ、衆僧ハ者昭堂、僕ハ者廊下、各

所ニ居テ護レ之ヲ、不レ限ニ男女凡聖ニ、參詣ノ之者、相競フ如レ市ノ、自リ初

更ニ至ニ五更ニ、不レ止ニ每毎矣、當寺者準后大夫人之所レ基

(六〇ウ)

也、不レ禁ニ女子ニ者、約ニスル大夫人之本誓ニ者乎、

開山忌、當日、法堂早晨獻ノ之時ハ者、備レ粥ヲ、常樂早晨諷

經ノ時ハ者、備ニ點心ニ也、一古ハ者自リ本寺ニ、爲ニ常樂衆僧ノ贈レ膳ヲ者ノ

十膳、今ハ者略ソ只贈ニ五膳ヲ耳、

開山忌齋料

壹斗

上方

五升

平東堂

三升 西堂_ト座_ニ元_ト維那_ト
貳升 平僧衆

（六一才）

祖忌微志 _元 <small>齋料_ト書_ク也</small>
澄長老 五器
今日 日
東福 納所禪師
松月軒

（六一ウ）

一 冬節ノ住持ナラハ、春以來ヨリ、二祖ノ香語ト、冬節ノ香語、并上堂小參ノ法語、其外謝語等ノ工夫、不レ可有_ニ油斷_一者也、
一 十月一日二日ノ間、差_サ達磨忌ノ兩班_ラ也、冬節ノ頭首、前堂

〔頭注・重出小異〕

後堂アレハ、五位ノ侍者バカリ、却來ノ侍者ニサス也、又冬節ノ頭首ナケレハ、却來ノ前堂後堂_ラサス也、又冬節ノ頭首、前堂バカリ有テ、後堂ナケレバ、却來ノ後堂_ラサス也、又頭首、後堂バカリ有テ、前堂ナケレバ、却來ノ前堂_ラサス也、冬節_ニ兩頭首トモニナケレバ、自_レ達磨忌_ニ冬節マデ、却來ノ前堂後堂、并五位ノ侍者_ラサス也、若_シ又冬節_ニ有_ル一頭首_一時_ハ、差_サ却來ノ首座_ラ一人_一也、自_レ達磨忌_一開山忌マデサス也、冬節_ニハ、頭首

（六一才）

一人ナリ^レ尸アレバ、却來ノ首座^ハイラヌ也、

一十四日^{ニハ}、早朝^ニ侍衣道具卸衣^{ニテ}、諸老^ヘマワリ、

侍衣^ニ也口^{ニテ}報^ラ云也、又大衆^ヘノ報^ハ、客頭持^テ廻^ル也、

請狀見^ニ于前^ニ、

諸老ノ名ヲ書立^テ、渡^ス

〔頭注・重出小異〕

(六二ウ)

預^リ申^ニ祠堂錢^ノ事

合壹石者 但内五斗者^一メ子、内二斗^ニ祥雲殿分

右來歲祖忌以前、加枝葉、

可令^還納者也、仍狀如件

慶長五^子庚年

小春初十日 聖澄判

常樂菴

免^丁僧^禪師

松月軒

右分^ニ壹斗五升遺之

(六三オ)

預リ申祥雲院殿弔料祠堂之事

合五斗者

忌日以前、加枝葉、可令
右來年八月五日以前、返納

返納者也、仍狀如件
可申者也、仍狀如件、

慶長五年庚子

八月三日 聖澄判

常樂菴

免丁禪師

松月軒

右分ニ升遺之

開山忌宿忌

十六日、方丈ノ經營、非時畢テ、住持支度ス、待ニ兩班ヲソロヘテ、

前板後板ト維那都寺ヲ先サキ遣ヤリ、其跡ニ住持、五位ノ侍者沙

喝ヲ引キツレ、常樂東序ハ柏心ノ東透ヲリ、西序ハ柏心ノ西透ヲリテ、兩班ニ

立也、住持直ハスク上ニ客殿ノ縁ニ、入レ座ニ、脱シ帽ヲ聽叫ニ持モテテ、北方ノ國

師ノ前ニ燒香、燒香侍者持テ香合、次ニ南方ノ塔主ノ乃祖ニ燒香也、次ニ中

央ニ進テ小問訊ク、燒香三拜也、於レ是著テ帽子ヲ、透ニ柏心ノ東方ニ

(六三ウ)

至^ニ中央^ニ脱^レ帽^ヲ、小問訊ノ入^ニ眞前^ニ、先^ツ燒香^ノ、茶、次^ニ供^レ湯^ヲ、又燒香^ノ出^テ、辨才天^ノ前^ニ燒香、次^ニ祖師堂^ノ燒香、次^ニ無^レ準^ノ燒香、次^ニ檀那^ノ燒香、今^ハ向^テ北^ノ石塔^ニ燒香、前^ニ二^ハ無^レ事^也、至^ニ中尊^ニ國師^ヘ燒香也、散^リ鈴^ノ時、燒香^ニ三拜^也、

(六四オ)

一 行道^一不^レ著^キ帽子^ヲ也、

一 常樂^ノ行事畢^テ、著^レ帽^ヲ也、住持^ノ之外、諸老^ハ行事畢^テ、有^ニ燒香^ニ三拜^一、

一 常樂^ノ行事過^テ、兩班^ヲ先^キ立^テ、住持^ニ透^リ柏心^ノ東^ノ方^ヲ歸^ル也、自^リ通

天^ニ法堂^ノ西^ヲ、南^ヘ透^リ、入^ニ佛殿^ノ之後門^一、脱^レ帽^ヲ、普菴^ニ燒香^ヲ、次^ニ

土地堂^ニ燒香、次^ニ東^ノ彌勒^ノ燒香、次^ニ本尊^ニ燒香、次^ニ西^ノ觀音^ニ

燒香^ノ、次^ニ祖師堂^ノ開山^ノ前^ヘ往^バ、開山^ヲ卸^レ下^タ、乘^ニ兩夾^ニ、マイラ

セ、供臺^ニ茶湯^ヲスヘテ置^也、住持^ノ小問訊^ノ、進^シ燒香^ノ、先^ツ承^ケテ

茶^ヲ供^ジ、次^ニ承^ケテ湯^ヲ供^スル也、サテ燒^レ香^ヲ退^ク時^ニ、打^テ鈴^ヲ、維那始^ムト大悲

(六四ウ)

咒^ヲ同^シ樣^ニ、住持^ハ取^リ出^シ坐具^ヲ、三拜^急ソイテスル也、經^ヲ讀^ミハツルト同^シ樣^ニ、開山^ヲ昇^キ出^也、次^第見^ハタリ此^ノ下^ニ、

諸^ノ頭首、并東序諸東堂西堂^ハ、常樂^ノ宿忌過^テ、自^リ通天^ノ南^ノ

橋^ニ西^ヘ往^キ、自^リ西南^ニ向^イテ、往^テ佛殿^ニ、自^リ佛殿^ノ西^ノ口^ニ入^テ、西班^ヲ次^ニ

東堂西堂^ハ北首^ニ立^也

一 挑燈^ニ右^ニ分^ニ左^ニ、二^ニ鈸[、]人^三三^ニ鼓[、]人^四四^ニ東班^ト西班^ト、五^ニ當住[、]六^ニ

五位ノ侍者沙喝、七ニ前住西堂大衆、位次第二問訊ヲシ、供ヲ

スル也、開山ハ自リ法堂ノ西ニ南ヘ廻リ、自ニ正面ニ入也、東班ハ自ニ

正面ノ東ノ方ニ入レテ内ニ立也、西班ハ自ニ正面ノ西ノ方ニ入レテ内ニ兩班ニ立

也、諸老ハ自ニ法堂ノ西ノ口ニ入ル也、住持ハ自ニ正面ニ入レテ内ニ、與ニ點供ノ

臺一、一間程置レテ間々タラシ、南ニ立也、維那手ニ挾ニ坐具ヲ、來ニ住持ノ前ニ請ス

點供ヲ、次ニ兩頭首、今ノ衆ハ、參暇ノ次ニ、請頭首ノ不審、次ニ參暇、次ニ都寺等ヲ請シ、維

那歸位ニ時、行者二人撞レ鉞ヲ出ス時ニ、分レテ立班スル也、立様ハ見ヘタリ次ニ、

點供ノ立班ノ次第

維那 住持 都寺 行者 參頭



住持 住持 住持 住持 住持

九拜 開山 巡禮

點供畢、各々立班シ、サテ九拜也、一ニ上香三拜不禮

(六五ウ)

(六五オ)

二ニ上茶三拜不坐真摺、三ニ揖ノ而三拜畢テ、摺ニ坐具ヲ掛ル時ニ、打テレ磬ヲ維那始也、散リ鈴ノ時ニ燒香三拜、回向了テ、住持ハ其ノマ、歸也、其餘ノ諸老ハ、有ニ燒香三拜一、

十七日 開山忌

住持支度ヲ赴ク佛殿ニ、祖師堂諷經、大悲咒三遍也、二遍

目ニ燒香三拜也、次ニ日中也、住持ハ自ニ祖堂諷經一、東

班ヲ先ニ立テ、透リ佛殿ノ後一、普菴ニ燒香シ、土地堂ニ燒香ス、中央ニ小問

訊ノ、東西ト中央ト燒香スル也、尊勝陀羅尼三遍、觀音經、消災

咒、

次ニ法堂ニテ獻粥、大衆モ會也、先ツ燒レ香ヲ、供レ湯ヲ、又供レ茶ヲ、又燒

香ヲ退ク時、維那唱フ楞嚴咒ヲ、散リ鈴ノ時、燒香三拜、

赴ク常樂ニ、住持ハ如ク前夕ニ、客殿ニ北ノ方ノ國師ニ燒香、南ノ方乃祖ニ

燒香ス、中央ニテ燒香三拜ス、透リ柏心ノ東ヲ行也、昭堂ノ中央ニテ脱レ帽ヲ、

小問訊ノ入テ眞前ニ、先燒香ヲ供レ湯ヲ、筋ヲナヲシ、供シ點心ヲ、次ニ供ニ

果子ヲ、次ニ承ケ茶ヲ供フ、又燒香問訊ノ出ル也、辨才天ニテ燒香、次ニ祖

師堂、次ニ佛殿、次ニ檀那、次有レハ香爐一、石塔ノ前ヘ、其餘ハセズ、次ニ

開山ノ前ニテ燒香也、又散リ鈴ノ時ニ、燒香三拜也、行事了テ、著ケテ

レ帽ヲ歸也、直ニ於ニ三方丈ニ用齋レ也、

(六六オ)

(六六ウ)

坐牌

坐科

坐科

坐科

坐科

坐科

坐科

坐科

主對

循廊叩韻

火鉢

香臺

函具

賓對

函具

（六七才）

坐牌^ハ主位^下賓位^下ニツミ、分^{ニケテ}位次^第ニ、主位^一ノ下^ノ位^カ、侍者位^下ニ
 坐^{スル}也、又賓位^一ノ下^ハ、西^ノ方^ノ後堂首座^ノ次^ニナ^ル様^ニ、盛^ル也、
 接^入ハ、代^{ニテ}住持^ニ、侍香脱^レ帽^ヲ、立^ニ唐^ノ戸^ノ東^ノ方^ノ側^ニ、與^ニ大衆^一問訊
 也、大衆^ハ自^リ一^ノ下^ニナ^ル也、平僧衆^ナヨリハテ、次^ニ兩班^ナ
 ヲル、先^ツ自^リ西序^ノ下^ニナ^リ、次^ニ自^リ東序^ノ下^ニナ^ル、次^ニ西堂[、]次^ニ
 東堂^モ、自^リ下位^ニナ^ル、次住持^ナル時、賓位^ハ不^レ問訊^セ、而主

對、次ニ賓對ノ兩所ニ問訊ク、ナヲル也、於レ是取ニ坐牌^一也、

侍衣ハ懸^ケ掛絡^一、出^テ、中央^一、坐牌^ヲ引カスル也、次ニ點^レ燭、侍香燒^ク

揖坐揖香^一也、侍香出^テ、小問訊^ク、進^{シテ}、跪^ッイテイカニモ靜、ツクバオテ、

取^テ香合^一、挾^ニ右脇^ニ左^ニ手^ニ開^テ蓋^ヲ、下^ニシキテ、香合^ヲ右脇^ニ挾^{シテ}、立^テ透^リ

西^ノ方^ヲ、燒^テ香^ヲ、透^リ東^ノ方^ヲ、歸^テ中央^ニ炷^テ、ツクバオテ、右^ノ手^ニ香合^ヲ置^テ元^ト

處^ニ、蓋^{シテ}、三步退^テ、問訊^ク、出^レ縁^ニ也、サテ侍香^ニ侍者^ヲ引

ツレテ、往^テ上方^ノ前^ニ、小問訊^ク、不^レ捨^テ其^ノ問訊^一、坐^ニナヲリサマ^ニ取^テ

坐牌^一ナヲル也、次ニ吹^キ滅^ス燭^一也、次ニ坐具^之禮畢^テ、座敷奉行^ガ

取^テ座頭^ノ屏風^一、出^レ膳^也、酢大根 煎羅服 ト子豆

煎昆布 飯 果子三種

門送^ハ住持也、唐門ノ内ノ東ノ方^ニ立^テ問訊也、侍者衆^ハ、立^ツ住持^ノ

後^一也、

二番座ノ間、住持ハ脱^キ道具^ヲクツロヒテ、拈香^ノ工夫^ヲスル也、鐘

鳴^レ、堂^ト與^ニ客頭^一ハズヲ取^テ、案内次第^ニ、著^キ道具^一、掛^ケ法衣^ヲ出^ル

也、平衣^ヲハ、聽叫^ニ手^ニ掛^ケサスル也、環^ノ方^ヲ外^ヘナス也、大香

合^ニ入^ル、燒香^ト瓣香^ト也、法堂ノ中央^ニ脱^レ帽^ヲ、小問訊^ク、十八拜

也、

上香三拜、上湯上食三拜、下嚙三拜、此九拜ノ間ミ

而九拜上香三拜、不擯上茶三拜、同 揖^ノ三拜、了、擯也

(六八オ)

擲^{坐具}也、時ニ老弱立班スル時ニ、住持普通問訊ノ、拈^ノ瓣香^一、唱^二

香語^一也、香語了^テ、立^テ、瓣香^ヲ、別^ニ不^レ柱^カ香^ヲ而退也、サテ堂

司報^ニ列拜^ノ圖^一之時、住持^ハ倚^リ柱^ノ傍^一、脱^ニ法衣^ヲ渡^ニ侍衣^ニ也、

掛^ケ換^ヘ平衣^ヲ出^ル中央^ニ時^ニ、維那立^ツ高卓^ノ東^ノ方^ニ、三步出^テ請^ニ住

持^一也、住持進^シ燒^レ香^ヲ也、次前任衆、東^首法座^ノ西^ノ方^ニ北^向立^ツ請^ノ、

各列^ノ進^シ燒^レ香^ヲ退也、次ニ參暇、法堂^ノ住持^ノ立^ツ準^ノ西^ニ

東^首兩參暇立^ツ請^レ之、燒^レ香^ヲ退也、參暇^ハ自^リ頭首^一西^ニ立也、

次^ニ都寺^ト前板^ト請^スル也、都寺^{ヨリ}燒^レ香^ヲ也、次^ニ頭首^燒香^ヲ退^ク、次^ニ

請^ニ後板^一、與^ニ維那^一燒^レ香^ヲ也、先^ツ自^リ維那^一燒^レ、次^ニ後板^燒退^ク時^ニ、

堂打^ニ鈴^ヲ三^ツ時、住持^ハ坐具^ヲ挾^ミ手^ニ、與^ニ前板^一問訊^シ、又與^ニ都寺^一

問訊^ノ展^ニ坐具^ヲ三^拜也、坐具^ヲ摺^ミ掛^ル時^ニ鳴^レ磬^ヲ、維那唱^フ楞嚴

咒^一、散^リ鈴^ノ時、燒^レ香^ヲ三^拜也、回^向了^ル時^ニ、開^山兒^ヲ出^ス、時^ニ

住持^ハ倚^リ東^ノ柱^ノ傍^一居^ル也、

一挑燈^ニ、二^ニ鉦^ニ、三^ニ鼓^ニ、次^ニ東班^ト西班^ト、次^ニ

住持、次^ニ諸老大衆、問訊^ノ供^ヲスル也、入^ニ佛殿^ニ安坐^ノ

後^ニ、兩班立^ツ、時住持小問訊^ノ、進^テ燒^レ香^ヲ、供^ニ茶^ト湯^ト退^ク時^ニ、維那

唱^フ大悲咒^一、住持不^ニ燒^レ香^一、急^イテ三^拜スル也、住持^ハ其^マ、歸也、

自^ニ餘^ノ諸老^ハ、有^ニ燒^レ香^一三^拜、

一、借^ニ方丈^ノ畫^ヲ時^ニ、借^ル狀^モ住持^ハ不^レ知也、行事歸^リ、畫^ヲトリヲク

(六八ウ)

(六九オ)

時ニ、晝ヲ入レテ箱ニ、付ニ侍衣之符^一也、

客殿トリヲク事ハ、客頭ノ役也、

一 十八日、懺法ノ非時ノ用意、可ニ申付^一也、今ハ無^レ之也、古^モ是ハ無^イ事也、

(六九ウ)